



Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery,
Nara Medical University

2019年 Facebookページ投稿記事

<https://www.facebook.com/otolaryngologyhnsnaramed/>



2019/01/01 5:00



新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。昨年に続き今年も多くの新メンバーが加入してくれますので、奈良医大のみならず連携病院の充足が実現されます。さらに新たな病院との連携を模索しつつ、亥年は医局一丸となって強い耳鼻咽喉科集団実現への道を突き進みたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます



2019/01/06 9:36



第55回畝火新年総会・平成31年畝火研究会学術講演会が昨日奈良ホテルにて開催されました。学術講演では昨年入局した秋岡先生、足立先生、岩倉先生、藤田先生、松山先生がお披露目口演を行い、西和医療センターの吉波先生に症例報告をしていただきました。

特別講演には東京大学大学院医学系研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野教授の山嵜達也先生にお越しいただき『両側前庭障害1)加齢による障害2)ノイズ電気刺激の効果』につきご講演いただきました。

また、本年度の若手畝火賞は近畿大学奈良病院の木村隆浩先生が愛知がんセンターに国内留学されていた時にこつこつと症例を積み重ねてまとめ上げた論文に決定しました。



2019/01/06 9:53



敵火新年会に引き続き、細井裕司先生理事長・学長再選お祝いの会が開催されました。細井先生はMBT構想のますますの進展や軟骨伝導補聴器の普及に向けてまだまだ第一線での活躍いただき、奈良医大、奈良医大耳鼻咽喉・頭頸部外科のさらなる発展にご尽力いただければと思います。



2019/01/13 0:09

Thyroid Cancer Network In 中和

日時：2019年1月12日(土) 16:00~17:15

場所：奈良県立医科大学 臨床医学研究棟1階 大会議室
奈良県橿原市四条町840 TEL 0744-22-3051

PROGRAM

総合司会 上村 裕和 先生 (奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科 准教授)

【一般演題】
「当科におけるレンパチニブの使用状況」
太田 一郎 先生 (奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科 講師)

【特別講演】
『超音波検査による甲状腺がん術前評価と術後フォローアップ』
古川 まどか 先生 (神奈川県立がんセンター 頭頸部外科 医長)



本日はThyroid Cancer Network in 中和を奈良医大にて開催しました。特別講演として神奈川県立がんセンターの古川まどか先生に「超音波検査による甲状腺術前評価と術後フォローアップ」と題して実践を含めてご講演頂きました。頸部エコー検査の第一人者である古川先生から頸部エコーのポイントをしっかりと教えて頂きました。講演後も夜遅くまで頭頸部から音楽談義まで大いに盛り上がりました。明日からどんどんとエコーを活用する仲間が増えることと思います！古川先生ありがとうございました！



2019/01/13 9:48



こんにちは耳鼻咽喉・頭頸部外科の北原仮面です。今年最初のポリクリ総括となりました。(更新が遅れ申し訳ありません)今週も再建手術をはじめ、多くの疾患について学んでいただきました。今週の学生さん達には九州の出身の方が2名もいました。最近は関西圏外出身の学生さんも多くなり、奈良医大の知名度も全国に浸透しつつあるのでしょうか。奈良のこの地で学び、奈良県内ばかりでなく、全国、世界に羽ばたいてくれることを期待しています。良い週末を！



2019/01/22 21:43



非常に嬉しいお知らせがあります。昨日1月21日月曜正午に専門研修プログラム二次登録が締め切られましたが、最後まで科の選択に迷っていた田中瑛久先生が決めてくれました。今年も多くの希望とやる気に満ちた先生方が当教室の門戸を叩いてくれました。ともに汗する同志として県民に寄り添い世界と競える耳鼻咽喉・頭頸部外科を目指したいと思います。



2019/01/24 21:14



耳鼻咽喉・頭頸部外科の山下です。本日、明日の2日間、宮城県仙台市にて第29回日本頭頸部外科学会学術講演会が開催されており、当科からも北原教授はじめ多数のスタッフが参加しております。そのため、本日は代理で一週ポリクリの総括をさせていただきました。週末は全国的に寒波到来の予報ですが、その前にしっかりと症例報告とテーマ発表をしていただきました。木曜日に総括となってしまう、学生にも迷惑をおかけしました。是非とも、BSLで耳鼻咽喉科を選択していただき、8週ないし4週の実習でさらに耳鼻咽喉・頭頸部外科の魅力を味わっていただきたいと思います。



2019/01/25 10:27



2019年1月24日～25日にかけて、仙台国際センターで第29回日本頭頸部外科学会が開催されました。当科および連携病院から、上村、太田、西村在、藤田が口演発表を行いました。また、研修医セッションでは当科で研修中の初期研修医、西村碩人先生が発表を行いました。



2019/02/02 22:57



本日は第34回奈良県感染症研究会が、奈良医大・耳鼻咽喉科学教室の当番幹事で、奈良ホテルにて開催されました。

当教室関連からは松山尚平先生、成尾一彦先生が、それぞれ眼窩内膿瘍、頭蓋底骨髄炎に関して発表しました。

昭和61年に始まった科の垣根を越えた歴史あるこの会も、平成を駆け抜け、新時代を迎える来年、奈良医大・微生物感染症学教室の矢野寿一先生の当番幹事で最終回となります。

写真上の中お二人は、左から特別講演いただいた清水猛史先生、本研究会代表幹事の三笠桂一先生。



2019/02/06 15:12

Otology & Neurotology
39:e1100–e1110 © 2018, Otology & Neurotology, Inc.

Focal Degeneration of Vestibular Neuroepithelium in the Cristae Ampullares of Three Human Subjects

*†Tadao Okayasu, *Jennifer T. O'Malley, and *†Joseph B. Nadol, Jr

**Otopathology Laboratory, Department of Otolaryngology, Massachusetts Eye and Ear Infirmary; and*
†*Department of Otolaryngology, Harvard Medical School, Boston, Massachusetts*

Background: We report a unique pattern of focal degeneration of the neuroepithelium of cristae ampullares, thick subepithelial extracellular deposits, and neural degeneration in three humans.

Objective: To characterize the pattern of vestibular degeneration and measure the thickness of subepithelial deposits in these three cases and controls.

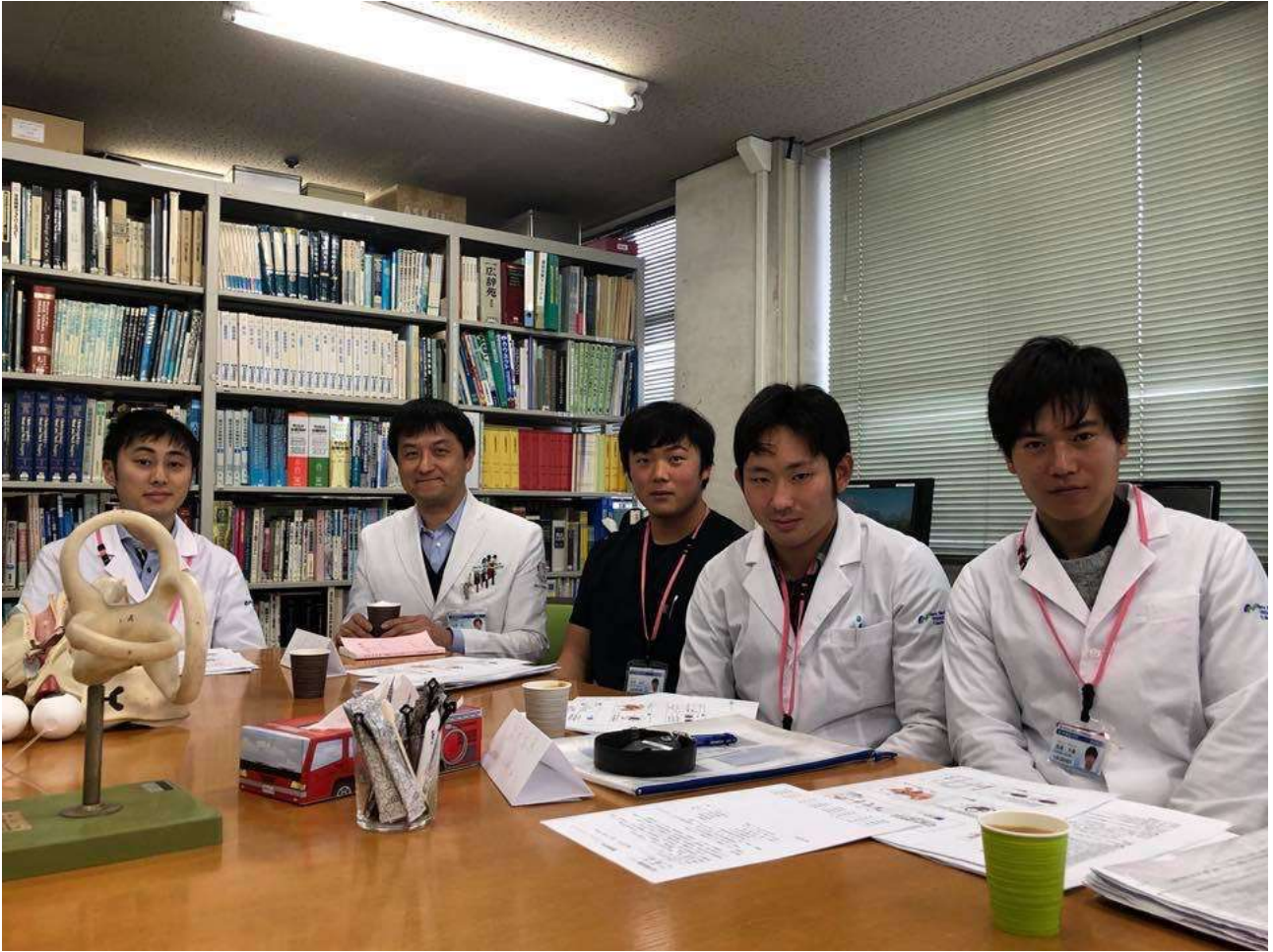
Methods: The subepithelial deposits of vestibular end organs in three subject cases and controls were studied using hematoxylin and eosin, periodic acid-Schiff, Gomori trichrome staining, and immunostaining for antineurofilament, antimyosin VIIa, and anticollagen 4a1. The thickness of deposit as measured by light microscopy was compared with that of control groups (age-matched controls, patients with unilateral Menière's disease, vestibular neuritis, cupulolithiasis, severe nonfocal degeneration of the vestibular neuroepithelium, and Alport syndrome). The correlation of thickness of deposits with age from 0 to 100 years was also investigated.

Results: Focal loss of hair cells in the neuroepithelium, thick subepithelial deposits, and degeneration of subepithelial dendrites and Scarpa's ganglion were found in all three cristae of three subject cases. Immunostaining demonstrated a decrease of afferent neural fibers in the cristae and focal fragmentation of the basement membrane adjacent to the deposits. The thickness of the subepithelial deposits in three cristae of three subject cases was significantly greater than that of all controls. In the three cristae of normal controls, the thickness of deposits demonstrated a positive correlation with age.

Conclusion: Although both age and degeneration of the vestibular neuroepithelium may be associated with the thickness of the subepithelial deposits, in this unique pattern of degeneration, the thickness of the subepithelial deposits was significantly greater than that in all controls. **Key Words:** Crista ampullaris—Human temporal bone—Vestibular neuroepithelial degeneration.
Otol Neurotol 39:e1100–e1110, 2018.

当科から米国ハーバード大学・耳鼻咽喉科(Dr.Nadol Lab)に留学中の岡安 唯研究員により、このたび前庭器の加齢性変化についての新知見が報告されました。半規管の加齢性変化について、これまでは半規管膨大部の感覚上皮細胞や神経節細胞が減少することは知られていましたが、それに加えて感覚上皮下に無細胞性の堆積物が蓄積していることが、学術誌*Otology&Neurotology*に掲載されました。他の感覚器では視器・網膜色素上皮下に代謝物が蓄積することは知られていましたが、半規管には着目されていませんでした。半規管の堆積物は加齢に伴って肥厚していましたが、耳石器（卵形囊、球形囊）では顕著ではなく、両者に相違を認めました。その原因や堆積のメカニズムについてはまだ解明されていませんが、前庭器の加齢性変化について新知見を与えるものでした。さらに研究が進み、加齢性平衡障害の病態解明や治療法に発展していくことが期待されます。この内容は今週末、Maryland州Baltimoreで開催されるARO 42nd Annual MidWinter Meetingでも発表されます。

2019/02/08 19:38



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日午後は恒例の新5回生1週ポリクリ・めまい総括の時間。学会出張、講演出張で何回か抜けましたので、この学年初めてのポリクリでした。さらに詳しく耳鼻咽喉科の良さを知りたい諸君は、是非選択ポリクリにお越しいただきたく思います。各医療施設ではGWの10連休をどのように対処するか、悩まれていることと思います。当科では一般耳鼻咽喉科に関しては未定ですが、耳鼻咽喉科内めまいセンターを4月29日(月)、5月3日(金)、5月6日(月)と3日間、開けることになりました。基本的には地域連携を通じての予約診療のみとなります。めまいセンターには、いつも数多くのめまい患者さんをご紹介いただきありがとうございます。北海道から沖縄まで全国からご紹介いただき、医師冥利につきます。ただ驚くことに、その紹介患者さんの90%以上がBPPVなのです。BPPVと言えば、めまいの教科書の最初のページに出てくるのは「い」のようなものです。おそらく患者さん自身のお話から、BPPVだというヒントをうまく引き出せていない可能性があります。解決策としましてはご紹介いただく際に、紹介状の最後に「BPPVとは違うと思いますので・・・」か「BPPVかも知れませんが・・・」か、つまりBPPVかどうかを今一度考えた上でご紹介いただくために一言添えていただくと、自施設で完結できる可能性が高まるのではないかと、愚考いたします。ご遠方から奈良近郊に泊りしてまで来院された患者さんに、診断名「BPPV」と告げるのはしのびなく思いますので、ご参考まで。



2019/02/13 15:15

第6回 頭頸部手術手技勉強会

テーマ：頭頸部腫瘍治療のための鼻内視鏡手術

1. 手術手技供覧ビデオ

(鼻内視鏡を用いた鼻副鼻腔良性腫瘍手術)

2. 外切開を置かない鼻副鼻腔拡大手術

場所：巖櫃会館 2F 研究室1

対象：医学生、初期研修医、医師、看護師

奈良県立医科大学

耳鼻咽喉・頭頸部外科

TEL：0744-22-3051

上村 (内線：66385)

西村在 (内線：66388) まで

2019年2月22日 PM 7:00

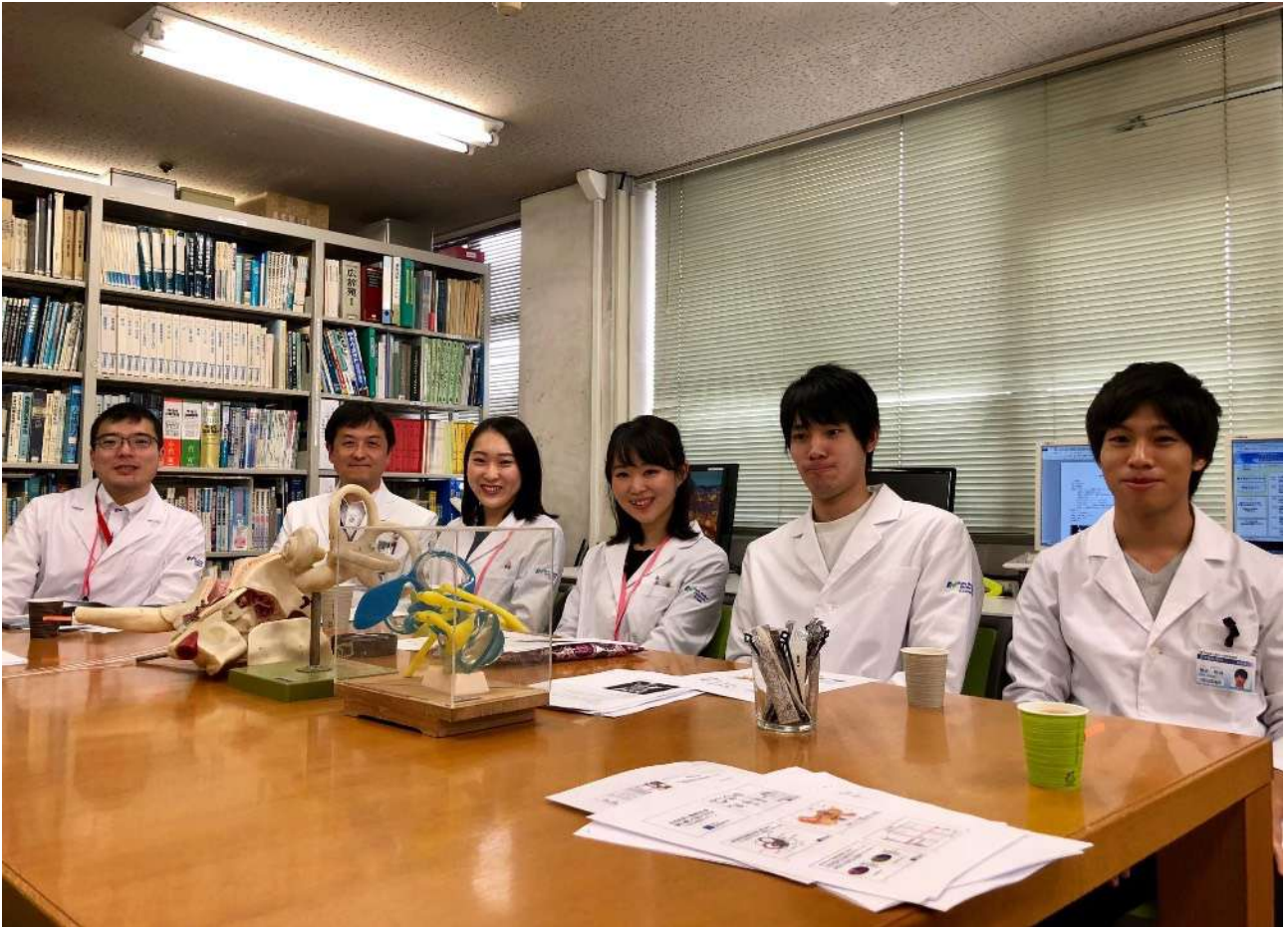


<https://www.facebook.com/otolaryngologyhnsnaramed/>

2019年2月22日（金曜日）19:00から巖櫃会館（いつしかいかん）において、第6回頭頸部手術手技勉強会を開催します。そもそもは奈良県立医科大学の関連病院の若手医師の技術力向上を目指して立ち上げた会ですが、近畿大学など他府県の施設からもご参加頂いています。学会では質問できないような基本的なこと、工夫点、知っているつもりでいた解剖学など、面白い話が聞ける勉強会です。耳鼻咽喉科医、頭頸部外科医でなくても楽しく学んで帰ってもらえる勉強会だと思います。看護師、医学部学生、研修医の皆さんもご参加頂けると嬉しく思います。今回は鼻内視鏡手術を頭頸部腫瘍の治療に応用する上での基礎になるような内容と、顔面切らない鼻副鼻腔・頭蓋底手術の症例提示を予定しています。



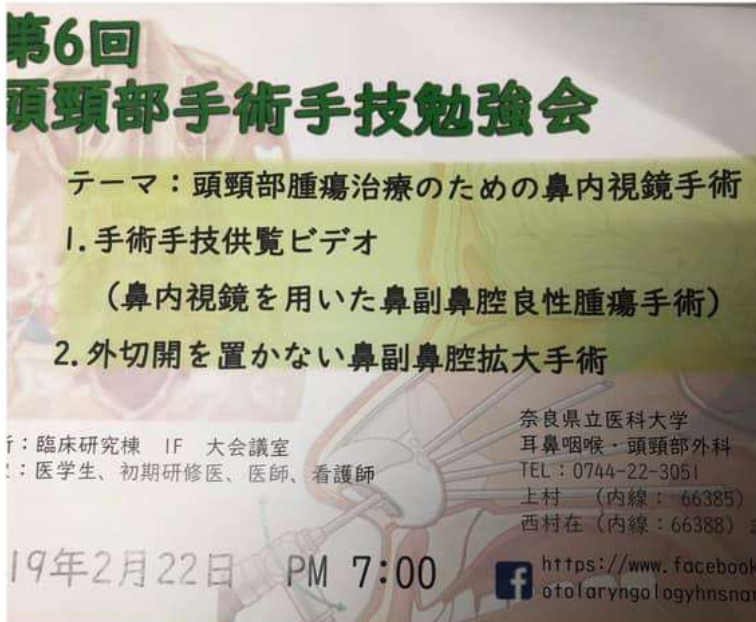
2019/02/22 19:04



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日午後は恒例の新5回生1週ポリクリ・めまい総括の時間でした。いつものように「めまい救急トリアージ：そのめまい患者さんを家に帰しても良いですか？」を講義しました。

本日2月22日は猫の日実行委員会が1987年に制定したネコの日だそうです。私はイヌ派なのでイヌにちなんだめまいネタを一つ。図1のわんこはBPPVにはなりにくく、図2のわんこはBPPVになりやすい、と考えています。皆様はいかが思われますでしょうか。良い週末をお迎えください。

2019/02/23 11:15



**第6回
頭頸部手術手技勉強会**

テーマ：頭頸部腫瘍治療のための鼻内視鏡手術

1. 手術手技供覧ビデオ
(鼻内視鏡を用いた鼻副鼻腔良性腫瘍手術)

2. 外切開を置かない鼻副鼻腔拡大手術

奈良県立医科大学
耳鼻咽喉・頭頸部外科
TEL：0744-22-3051
主村 一 (内線：66385)
西村在 (内線：66388)

行：臨床研究棟 IF 大会議室
参加：医学生、初期研修医、医師、看護師

19年2月22日 PM 7:00 <https://www.facebook.com/otolaryngologyhnsnar>



昨日、第6回頭頸部手術手技勉強会を厳樞会館で開催しました。外切開による鼻副鼻腔腫瘍手術について上村准教授と西村在医員から、内視鏡を用いた良性腫瘍手術について山下学内講師から手術ビデオを供覧しながら説明がありました。今回も、関連病院や他大学の先生方、病棟看護師など多数で参加いただけました。特に昨日は、鼻副鼻腔領域のスペシャリストである三重大学耳鼻咽喉科の小林正佳准教授にも遠路はるばるご参加いただくことができ、アドバイザー的にコメントを沢山いただくことができました。今後も奈良医大耳鼻科では鼻副鼻腔領域の手術においても先進的な考え方や技術を取り入れて行っていきたいと思います。



2019/02/24 17:29

耳の日の講演会と聞こえの相談会
補聴器と人工内耳

〈プログラム〉 ○講演 「難聴と治療」
奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学
難聴外来 補聴外来担当 西村 忠己 先生

○体験談 ○質疑応答 ○個別相談

人工内耳メーカー・補聴器販売店による製品の展示もあります

日時 2019年 2月24日(日) 午後1時～午後4時
会場 生駒市コミュニティセンター 4階 402・403会議室
参加費 無料 申込み不要
主催 奈良県聴覚障害者支援センター
TEL 0744-21-7880 FAX 0744-21-7888

共催：奈良県中途失聴・難聴者協会 案内図
生駒市難聴者福祉協会
協賛：株式会社 日本コクレア
協力：人工内耳メーカー
補聴器販売店

生駒市コミュニティセンター
〒630-0257 奈良県生駒市元町1-6-12
生駒セイセイビル内

近鉄生駒駅前出口から 南へ徒歩約4分
＜お願い＞ 駐車場はありません。市営駐車場（身障手帳提示で割引あり）および私営のパーキングをご利用ください。

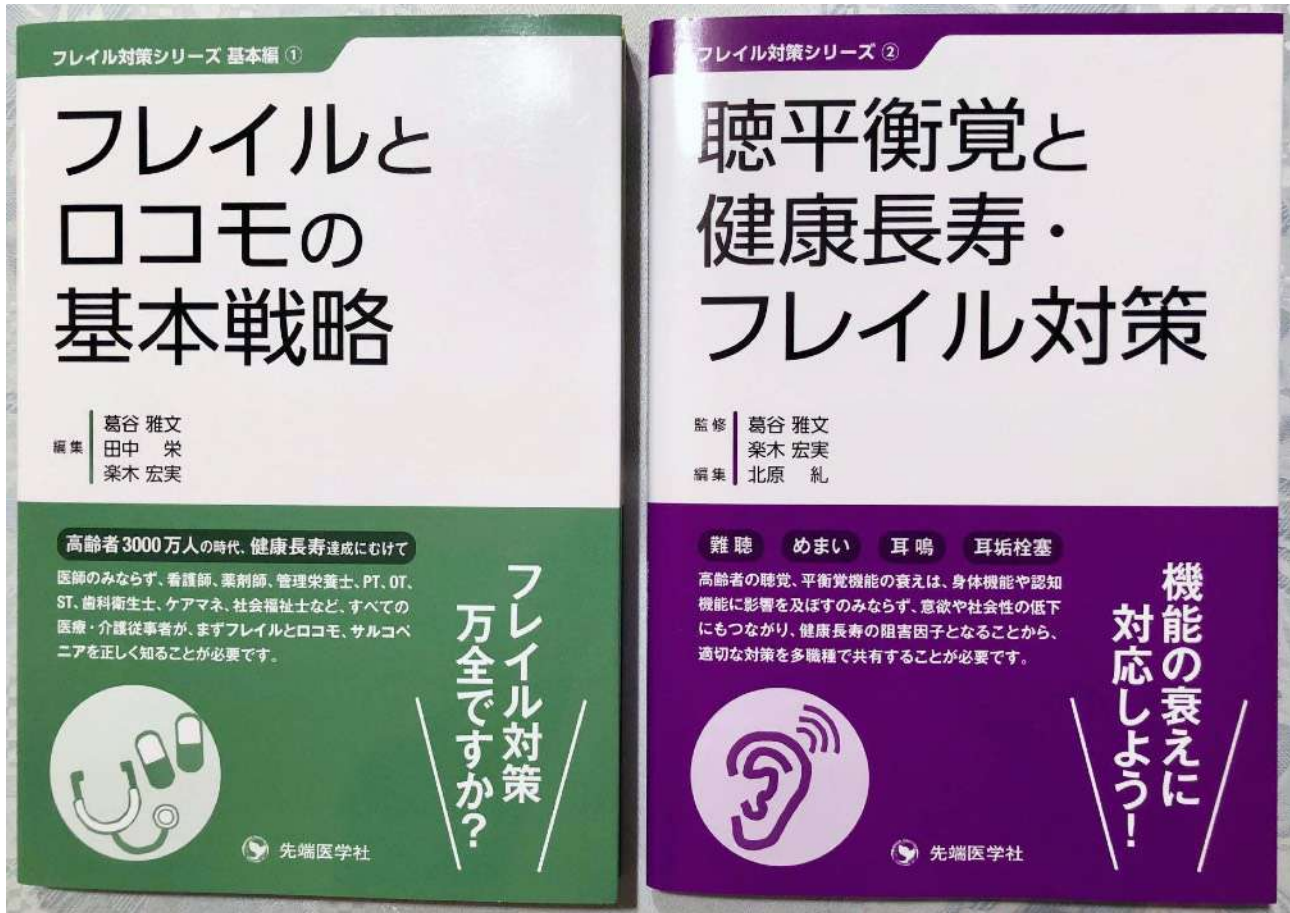
情報保障に関して
当日は要約筆記、ヒアリングループを設置します。
聞こえにくい方でも安心して参加できます。
要約筆記…パソコンやOHCを使用して、話されている内容をスクリーン
に投影して知らせる、コミュニケーション補助手段です。
ヒアリングループ…補聴器のスイッチを切り替えることにより、マイクを
通した話者の声が直接補聴器に入るシステムです。雑音に煩わされず、
きれいに聞こえます。

この集いは、障害の有無に関係なく、どなたでも参加できます
ご友人やお知り合いをお誘い合わせのうえ、ぜひご来場ください



本日奈良県聴覚障害者支援センター主催の「耳の日の講演会と聞こえの相談会」にて、西村講師が「難聴と治療」の講演をおこないました。講演後の相談会には、西村講師の他、山下学内講師と森本診療助教が相談員として難聴患者の相談に対応させていただきました。

2019/03/01 1:31



このたび、奈良医大附属病院めまいセンター編集で、フレイル対策シリーズ第2巻「聴平衡覚と健康長寿・フレイル対策」が発刊されました。きっかけは、名古屋大学老年内科の葛谷雅文先生、大阪大学老年内科の楽木宏実先生から、健康長寿のためのフレイル対策に関するシリーズ本を出そう、とのお誘いで企画されました。まず今年1月に第1巻基本編が老年内科から、続いて2月に第2巻が耳鼻咽喉科から、この世に出たばかりの2冊です。各パーツの執筆願いを快くお引き受けいただき、お忙しいにも関わらず手際よく書き上げてくださった先生方には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。実は耳鼻咽喉科バージョンは第4巻か第5巻になるはずだったところ、耳鼻咽喉科メンバーの執筆対応が非常に早かったため、第2巻に繰り上がったとのこと。今後はさらに呼吸器、循環器と続き、シリーズ全10巻となる予定です。医師のみならず、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士、ケアマネ、社会福祉士など、すべての医療・介護従事者がフレイル、ロコモ、サルコペニアを正しく知り、各々の役割を推し進めるために大変参考になります。今年度も残すところあと1ヶ月となりました。やり残していることも多々あるかと存じますが、ひとまず良い週末をお過ごしください。



2019/03/04 21:21

日本医療研究開発機構 18s40106430b0001 研究開発代表者 花井 信広
「Stage I/II 舌癌に対する予防的頸部郭清術の意義を検証するための多施設共同臨床試験」 第

平成 30 年度 頸部郭清講習会

日時：平成 31 年 3 月 3 日（日）10:30～
会場：ウィンクあいり 1303

プログラム

Opening remarks & presentation 10:30-10:40
朝蔭孝史先生（東京医科大学歯科 頭頸部外科）

各パートごと 講演 30 分、討論 10 分

1. メスを用いる頸部郭清の実際 ～層の概念～ 10:40-11:10
別府慎太郎先生（愛知県がんセンター中央病院 頭頸部外科）
 2. 顔面神経下顎枝の残し方と顎下の処理 11:10-11:40
伏見千宙先生（国際医療福祉大学三田病院 頭頸部腫瘍センター）
 3. 頸部郭清療法と領域郭清における頭神経・副神経の処理 11:40-12:10
篠崎剛先生（国立がん研究センター東病院 頭頸部外科）
- 休憩 12:10-13:30
4. 下顎部における神経損傷の防ぎ方と静脈角の処理 13:30-14:00
鈴木基之先生（大阪大学大学院医学系研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
 5. 頸部郭清上面の迷走舌下舌神経 14:00-14:30
上村新和先生（奈良国立医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
 6. 頸部郭清におけるリンパ節や血管浸潤などの対応について 14:30-15:00
新橋渉先生（がん研究会有明病院 頭頸科）

Closing remarks

15:00-15:10
林瑞一先生（国立がん研究センター東病院 頭頸部外科）

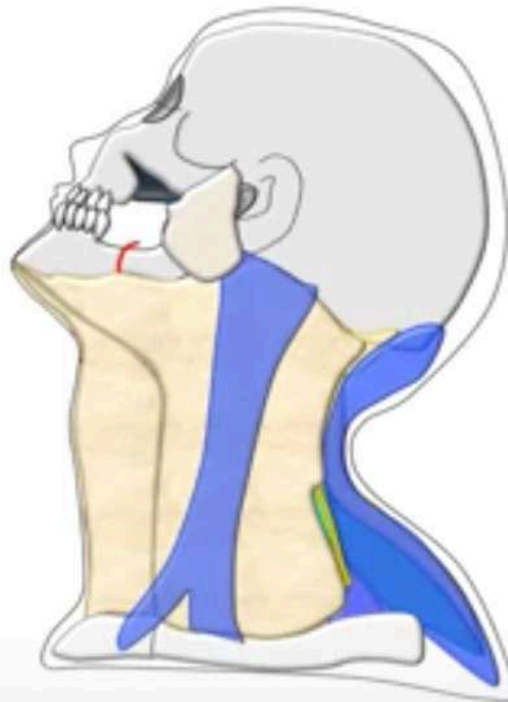


3月3日（日曜日）にウィンクあいちにおいて平成30年度頸部郭清術講習会が開催されました。沢山の先生方にご出席頂き、様々なご質問・コメントを頂いて大変活発な討論が交わされました。当科からは上村が講師の一人として講演させて頂き、太田医師、西村在医師、足立医師が参加してくれました。頸部郭清術も現在では機能温存を考慮した術式が選択・施行されるようになりました。東京医科歯科大学頭頸部外科 朝蔭先生のopening remarksに始まり、講師の別府慎太郎先生、伏見千宙先生、篠崎 剛先生、鈴木基之先生、新橋渉先生からは頸部郭清術に関するエッセンスと示唆に富んだ素晴らしい講義を頂いて非常に勉強になりました。最後は国立がん研究センター東病院頭頸部外科 林先生からのclosing remarksで閉幕となりました。閉会後も講師陣、司会を頂いた愛知県がんセンター頭頸部手術 花井先生とビールを片手に頸部郭清術に関する熱い話しが続きました...

By UEMURA

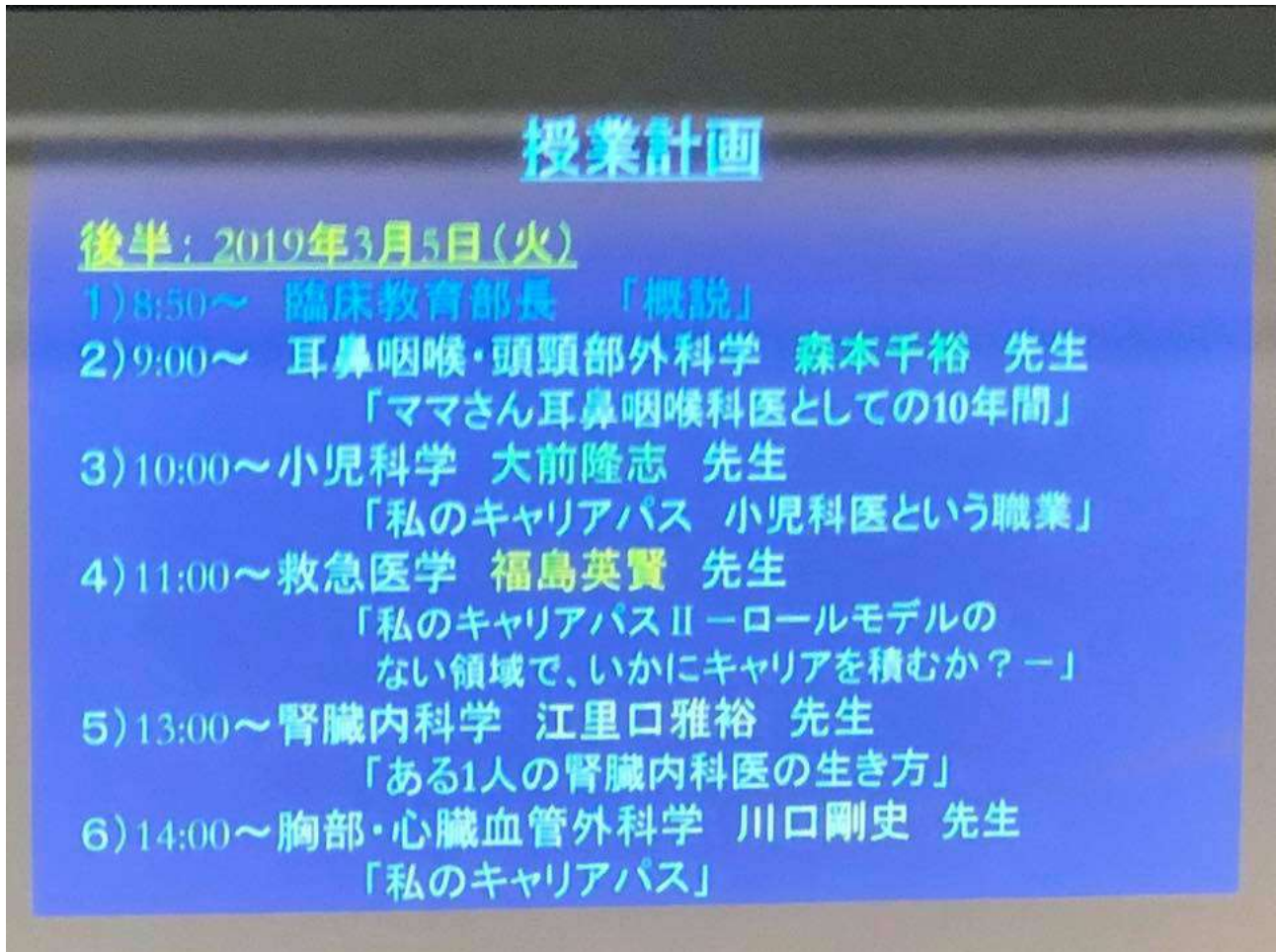


2019/03/05 0:44



平成30年度頸部郭清術講習会のpresentationで使用した頸部郭清術のoriginal animationです。 By UEMURA

2019/03/05 10:08

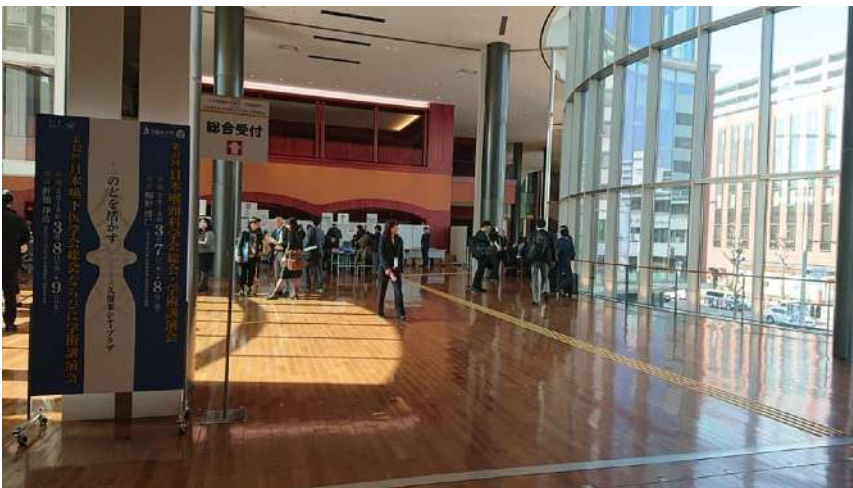


奈良県立医科大学では、昨日から今日にかけて、先輩医師から医大生に向けてのキャリアパス講義が企画されています。本日のトップバッターは、当教室から森本千裕先生にお話しいただきました。

奈良県立医科大学もご多聞に漏れず、医大生の30～40%が女性です。したがって、女性医師の活躍無くして奈良医大の将来はありません。この企画が女性医師の目指すキャリアパスの参考になり、男性医師にとってもこの件を良い方向に進めるための参考になるものと期待します。



2019/03/08 16:54



3月7日から8日にかけて久留米シティプラザにて第31回日本喉頭科学会総会・学術講演会が開催され、当科からは上村裕和准教授と蓮川昭仁医員が参加しました。同学会にて開催された第2回チタンブリッジ実施手術講習会には上村准教授が参加し、当科にて甲状軟骨形成術Ⅱ型を施行できる道筋を整えております。

2019/03/08 19:50



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日午後は恒例の新5回生1週ポリクリ・めまい総括の時間でした。これから救急、総診、脳外、脳内を回る際に役立つ知識になると期待します。ところで「めまい」を苦手とする医師は、耳鼻科医の中にも多いようです。「めまい」は非常に曖昧な自覚症状であり、いろいろ検査をしないと原因がわからないから、なのだろうと推察します。苦手を克服するためには、難しい話は置いておいて、例外は後付けにして、おおざっぱに「めまい」を捉えることが重要です。「めまい」は自分の意思とは無関係に動く「眼振」に他ならず、「眼振」は三半規管それぞれから一対一対応で発現するので、水平、垂直、回旋の3つしかない。つまりは「めまい」は3つしかないのだと。英単語を何万個と覚えてきた医大生も、ひたすら多くの疾患を覚えて国試を乗り越えた研修医も、「めまい」は3つしかないのだとたかをくくることができれば、次のステップへと踏み出しやすくなります。その「眼振」を観察する際に、固視抑制が効けば小脳が元気だから「内耳由来」、固視抑制が効かなければ小脳が具合悪いので「脳由来」だと。その「眼振」の種類が、頭位や体位や経時的に容易に変化すれば(脳のキズは刻々と広がりを見せる可能性がある)「脳由来」、何をしても方向固定性であれば(内耳のキズは基本的には移動するわけではないので)「内耳由来」だと。どうでしょう。わかった気になってきましたか。続きは次のポリクリ後のFBで。



2019/03/16 9:49



奈良県立医科大学では3月15日に卒業式が挙行されました。帝国ホテル大阪にて行われた謝恩会に耳鼻咽喉・頭頸部外科から北原教授と太田講師、山下が参加いたしました。また、謝恩会後の耳鼻咽喉科主催の懇親会には4人の卒業生に参加いただけました。痛恨にも謝恩会、二次会の写真を撮り忘れてしまい、みなさんにその様子をお伝えできないことが心苦しい限りです…。6年生のみなさん、卒業おめでとうございます。



2019/03/18 14:46



奈良県立医科大学では2016年度より、第2学年の「リサーチ・クラークシップ」が始まりました。海外12施設、国内校外8施設、学内47研究室に学生が配属され、実験、実習を行っていただくものです。当教室には3名の学生が配属され（石井君、井上君、森谷さん）、和田特任講師、塩崎助教の指導のもと、約3か月間にわたりresearch研究を行っていただきました。本日の成果報告会において、「重力感受性とゴルフ・スキル向上の関係」と「動的バランス訓練による前庭脊髄路の賦活化の検証」について、発表していただきました。検査方法、統計処理、ポスター作製、プレゼンテーションと一つ一つ勉強していただき、最後には素晴らしい形で報告できたと思います。



2019/03/21 1:25



本日はB8病棟の合同送別会でした。当科からは木村直幹先生、蓮川先生、足立先生、岩倉先生、藤田先生、松山先生がこの春に新天地に旅立つことになりました。また、病棟看護師や外来受付、血液内科や総合診療科のDr.等70人近くの関係者に参加いただき盛大な会となりました。四月からは後期研修医6人が新たに加わる予定です。また大学院生の伊藤先生や愛知県癌センターから西川先生が復帰したりと新しい船出になります。今後ともよろしく願いいたします。



2019/03/30 14:31







2019年3月28-30日、韓国ソウルで開かれた6th ASHNO 2019(アジア頭頸部癌学会)に当科からは太田講師と秋岡医員が参加しました。

今回は韓国主催だけあって韓国の先生方のパワーを感じる学会でした。今回の学会でも再会とともに新たな出会いもあり盛り多き学会でありました。更に太田講師の共同研究者であるYonsei UniversityのYook 教授に超巨大な大学病院などを案内してもらい、研究の打ち合わせもでき素晴らしい時間が過ぎました。今回の新たな発見は、Yonsei University Hospital 併設に豪華な葬祭場ができていたことです。そのホスピタリティの高さは群を抜いています！

色んな意味で今後の仕事に活かせる旅となりました。



2019/04/01 23:44



奈良県立医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座は新しく六人の後期研修医を迎えて新年度のスタートをきりました。時を同じくして、大学中庭の桜の木も新しい先生方を祝福するかのように一気に花を咲かせてくれました。医局員一同、また新たにフレッシュな気持ちで臨床、教育、研究に精進して参りたいと思います。

2019/04/05 17:42



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日午後は恒例の新5回生1週ポリクリ・めまい総括の時間でした。耳鼻咽喉科の中には他科と接点を持つ分野が数多くありますが、「めまい」もその一つです。「めまい」総括は最終的に耳鼻科に進む医大生に対して、耳鼻科に進まない医大生に対して、知っている損はない分野だと思っています。「めまい」を苦手とする医師は耳鼻科医の中にも多いようです。「めまい」は「眼振」に他ならないと前回(2019.03.08)に述べましたが、「眼振」を見るのが苦手では「めまい」を克服することはできません。そこで「眼振」検査の流れを簡単にご説明します。内耳由来の「眼振」は内耳機能の左右差から生じます。右内耳が障害を受けた場合、眼球は内耳機能の低下している側つまり右側にゆっくり回り、健常側つまり左側に素早く戻りリセットされ、これが繰り返されます。この場合、「眼振」の向き/種類は左向き/水平性ということになります。右内耳がやられると左向きに出るわけです。内耳機能の左右差が著しいと「眼振」はフレンチェル眼鏡を掛けない注視時にも発現しますが、時間経過とともに左右差が是正されフレンチェル眼鏡を掛けた自発時にしか認められなくなり、さらに左右差が弱まると頭を左右に振りたくる刺激を与える頭振後でないと観察できません。つまり内耳が犯人の場合、犯人は時間経過とともにどんどん見つからないように隠れようとするのです。ですから我々は、まず「注視眼振」、次に「自発眼振」、そして「頭振後眼振」の順に、隠れようとする犯人を追いつめます。あとは「頭位・頭位変換眼振」というモノがありますが、これは頭を右や左に大きく傾けて、内耳の中で剥がれた耳石を転がらせる検査です。剥がれた耳石が後半規管に入っていれば回旋性、外側半規管に入っていれば水平性の「頭位・頭位変換眼振」が観察されます。つまり「頭位・頭位変換眼振」はBPPVを洗い出す検査なのです。どうでしょう。わかった気になってきましたか。しかし最もツライのは何をやっても「眼振」が認められないときですよね。そんなときどうするか。続きは次のポリクリ後のFBで。

2019/04/05 17:44



NCBI Resources How to

PubMed.gov
U.S. National Library of Medicine
National Institutes of Health

Advanced

Format: Abstract = Send to =

Int J Pediatr Otorhinolaryngol. 2019 Mar 11;121:45-57. doi: 10.1016/j.ijped.2019.03.006. [Epub ahead of print]

Audiological evaluation of infants using mother's voice.

Sato O¹, Nishimura T², Mizumoto C³, Otsuka S⁴, Usatani Y¹, Matsuzawa Y¹, Iijima H², Kishigaki T¹.

Author information

Abstract

OBJECTIVES: Hearing loss is a serious problem in infants and children because it may interfere with the development of typical speech, verbal language, and auditory and communication skills. By measuring hearing ability (thresholds) as early as possible, even as early as during infancy, effective treatment can be administered. These treatments may significantly reduce the handicap associated with hearing loss. However, at times during behavioral auditory tests, observers cannot determine whether or not an accurate threshold was obtained. To support the use of infant audiometry for accurate diagnosis, audiologic behavioral responses may be obtained by selecting stimuli that interested infants, e.g., their mothers' voices.

METHODS: We evaluated 30 infants who were presented to our hospital for behavioral auditory assessment in 2016. The infants' ages ranged from 4 months to 3 years and 6 months. The mean age was 1 year and 10 months \pm 10 months (\pm standard deviation). The infants' hearing thresholds for their mothers' voices and warble tones at 250, 400 Hz, were measured. Auditory brainstem responses (ABR) had already been evaluated in 24 infants. Relationships between mother's voice and warble tone or ABR thresholds as well as responses to the initial stimuli and stimuli at the threshold were investigated. These responses were classified into four grades (no response, uncertain response, possible positive response, and positive response), and the response to mother's voice and warble tone were subsequently compared.

RESULTS: Mother's voice thresholds significantly correlated with all warble tone thresholds. In the relationship between the mother's voice threshold and average hearing levels of 500, 1000, and 2000 Hz, two infants were outliers. In these infants, the average hearing levels were relatively higher than the mother's voice thresholds. Judging from their ABR thresholds, the mother's voice thresholds were valid and the average hearing levels were worse than their original assessed hearing ability. The responses to mother's voices were more obvious than those to warble tones, both for initial stimuli presentation and the determined threshold.

CONCLUSIONS: Audiologic behavioral responses to mothers' voices were clearer than those for warble tones. Evaluations that use the mother's voice threshold are useful for estimating hearing levels in infants.

Copyright © 2019 Elsevier B.V. All rights reserved.

KEYWORDS: Behavioral observation audiometry, Conditioned orientation reflex, Infant audiometry, Mother's voice, Warble tone

乳幼児の難聴は、のちの言語発達、言語獲得、コミュニケーション・スキルに影響を及ぼす可能性があるもので、重大な問題となり得ます。しかし、乳幼児は往々にして機械的な検査音に興味を示さないので、乳幼児の聴力検査ってなかなか大変です。そこで奈良医大の聴覚グループは、乳幼児が聞き慣れている母親の声を音刺激として用いてはどうか、ということで検討しました。

結論としては、母親の声に対する反応は、機械的な検査音を呈示した時より明瞭であることがわかりました。母親の声の閾値を併用して評価を行うことは、乳幼児のおよその聴力を把握するために有用であると思われる。

言語聴覚士の齋藤 修先生は、精力的にこの仕事を手掛け、つい先日Int J Pediatr Otorhinolaryngol 誌に受理されました。是非、参考にしてください。



2019/04/14 15:54

第88回奈良県耳鼻咽喉科講習会プログラム

司会 近畿大学医学部奈良病院 家根 旦有

開会の辞 日耳鼻奈良県地方部会 会長 奈良県立医科大学 北原 紘

情報提供 (16:00~16:10)

アレルギー性疾患治療剤「ルバフィン錠」について

田辺三菱製薬株式会社 内垣 雄

一般講演 (16:10~16:30)

座長 天理よろづ相談所病院 堀 龍介

1.気管支喘息を合併した好酸球性副鼻腔炎の治療経験

天理よろづ相談所病院 鹿子島 大貴

2. 当科における耳下腺腫瘍の臨床的検討

奈良県立医科大学 秋岡 宏志

特別講演 (17:40~18:40) <領域講習>

座長 奈良県立医科大学 北原 紘

「嚥下障害と胃食道逆流症」

東北大学大学院 医学系研究科

耳鼻咽喉・頭頸部外科学

教授 香取 幸夫 先生

閉会の辞

奈良県耳鼻咽喉科医会 会長 大橋 一博

◎特別講演<領域講習>の途中退席はお控えください。





昨日、第88回奈良県耳鼻咽喉科講習会がかしはら万葉ホールで開催されました。一般演題では、当科の秋岡宏志医員が「当科における耳下腺腫瘍の臨床的検討」について講演しました。特別講演には、東北大学大学院医学系研究科耳鼻咽喉・頭頸部外科学教授の香取幸夫先生をお招きして「嚥下障害と胃酸逆流症」についてご講演いただきました。嚥下に関する入門的な診療プロセスから外科治療まで、短時間にわかりやすくご紹介いただきました。

2019/04/19 17:57



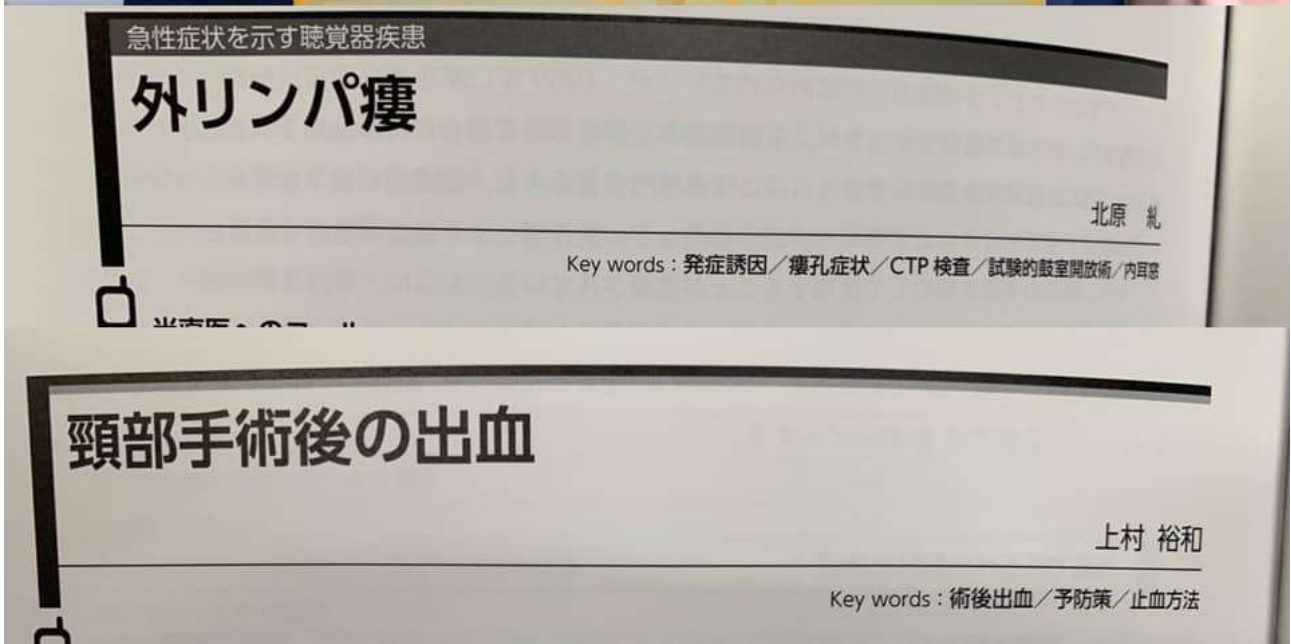
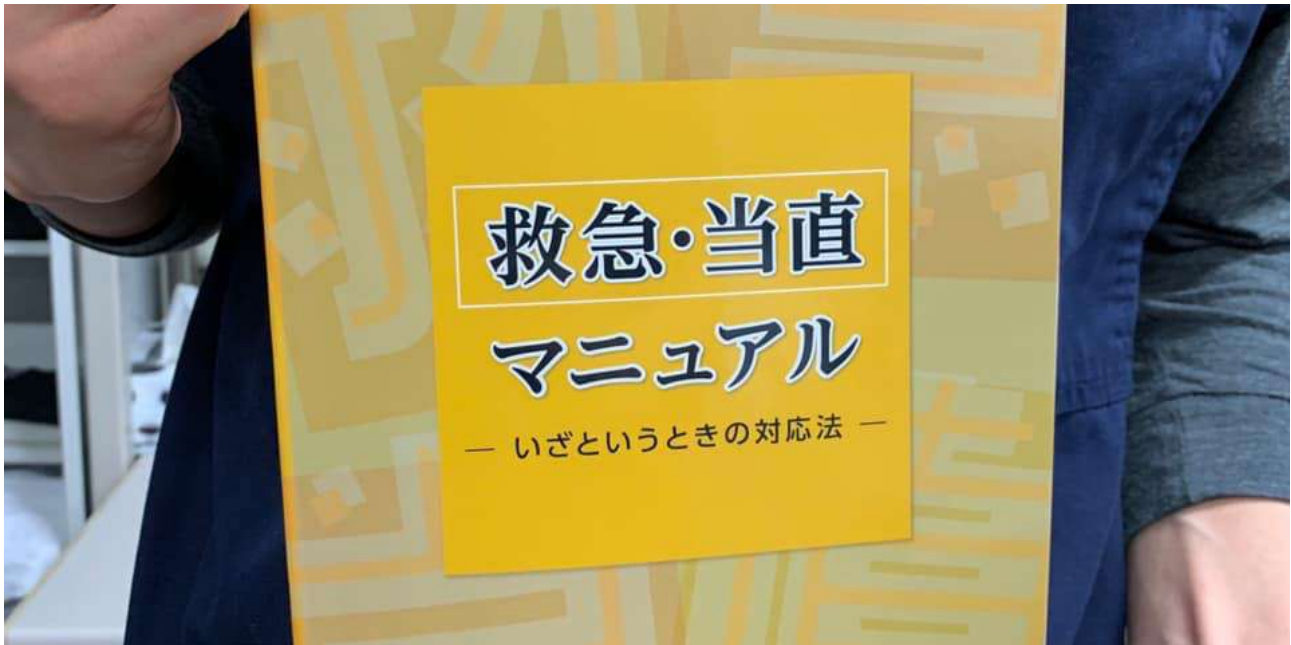
耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日午後は恒例の新5回生1週ポリクリ・めまい総括の時間でした。

「内耳・平衡覚」は「スポーツ」に密接に関係しています。「耳石」や「三半規管」が無ければ「スポーツ」はうまくできません。「スポーツ」が好きな医大生諸君に「筋肉」や「骨」だけでなく「内耳・平衡覚」にも興味を持っていただけると嬉しいです。「めまい」を苦手とする医師は耳鼻科医の中にも多いようです。

「めまい」は「眼振」に他ならないということを前々回(2019.03.08)に、「眼振」を診ることで内耳の犯人を追い詰めることを前回(2019.04.05)に述べました。しかし最もツライのは何をやっても「眼振」が認められないときです。そんなときどうするか。そのめまい患者さんを心の病だと決めつけて精神科送りにする前に次の2つをお考えください。困ったときは疾患統計に立ち返りましょう。60歳以上の眼振がはっきりしないめまい患者さんの70%はBPPVです。動くときふわふわ増悪、じっとしているとマシ、日によって症状にナミがある、閉経/骨粗鬆症/ステロイド治療中の方はBPPVを疑いましょう。就寝時のヘッドアップでめまい感が改善されていけば納得ですね。30歳以下の眼振のはっきりしないめまい患者さんの70%はODです。血圧が低い、頭痛持ち、高齢者・高血圧でも血圧降下剤を飲んでいる方はODを疑いましょう。シェロング試験で陽性が出れば納得ですね。以上、ここ3回にわたり「めまい」に関する診療エッセンスを述べました。かなり大ざっぱで乱暴な部分もあり、ご批判もあろうかと思いますが、細かいコダワリこそが、これから進路を考えようとしている若い先生方にとって「めまい」を嫌いにさせる元凶になると考えます。ざっくりと理解し、「めまい」がそれほど手強くないと思うようになれば、おのずと各自マニャックに成長していくので大丈夫だと思っています。



2019/04/19 18:45



救急当直していると、前医での処置・手術内容が明らかでない患者さんも飛び込んで来ますので大変です。そのような状況下でも適切に対応できるよう、耳鼻咽喉科すべての分野が網羅された一冊です。「医師の働き方改革」が叫ばれている昨今、制度改革ももちろん重要ですが、やはり各医師個人のスキルアップがあってこそ、ですね。奈良医大めまいセンターから「外リンパ瘻」、頭頸部外科マスターから「頸部手術後の出血」で執筆参加しております。



2019/05/07 19:42



本日、ベトナム国Hue Central HospitalのTRAN PHUONG NAM Dr以下3名の先生方が奈良医大耳鼻咽喉・頭頸部外科を見学されました。



2019/05/09 15:13



当科から米国ハーバード大学・耳鼻咽喉科(Dr.Nadol Lab)に留学中の岡安 唯です。

2019年5月1-5日、テキサスのオースティンで開かれたCOSM(combined otolaryngology spring meeting)に参加しました。ポスターセッションでは人工内耳後の症例の耳石器、平衡器のマクローファージの分布について発表しました。その後は新潟大の堀井 新教授のお計らいで、ANS(アメリカ神経耳科学会)の会にご一緒させて頂きました。新潟大学の先生方とも交流させて頂き、充実した会となりました。

6月末に奈良に帰国致しますので、皆様どうぞよろしくお願ひします。



2019/05/09 23:04





パネリスト

北原 紘 (奈良県立医科大学)

室伏 利久 (帝京大学溝口病院)

五島 史行 (東海大学)

城倉 健 (横浜市立脳卒中・神経脊椎センター)



本日より大阪国際会議場にて第120回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会が開催されております。本日は当科関連病院からの演題の発表が数題あり、明日より本格的に医局員も座長、シンポジスト、発表者として参加させていただきます。また、本日は奈良医大の六年生1名と四年生2名も参加させていただきました。彼らは明日のハンズオンセミナーに参加いただく予定です。今回の学生は自ら学会参加を希望していただきました。今後も、機会があれば積極的に学生の学会参加をサポートしていきたいと思っております。



2019/05/10 15:38



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原仮面です。本日は令和元年最初の新5回生1週ポリクリ総括です。令和の幕開けに相応しく、みんな元気にパシッとそれぞれの課題をまとめてくれました。日耳鼻総会も盛り上がっているようです！良い週末を！



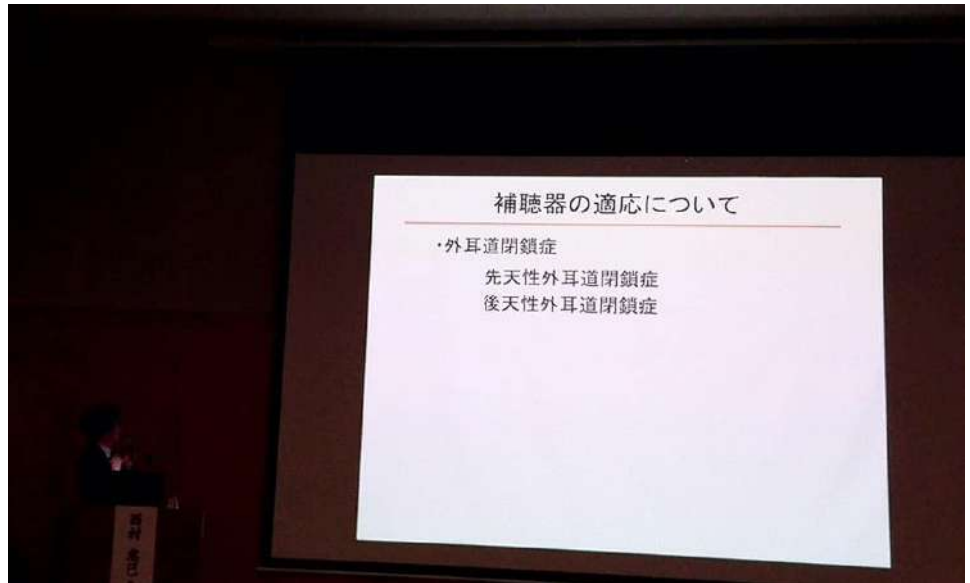
2019/05/18 11:45

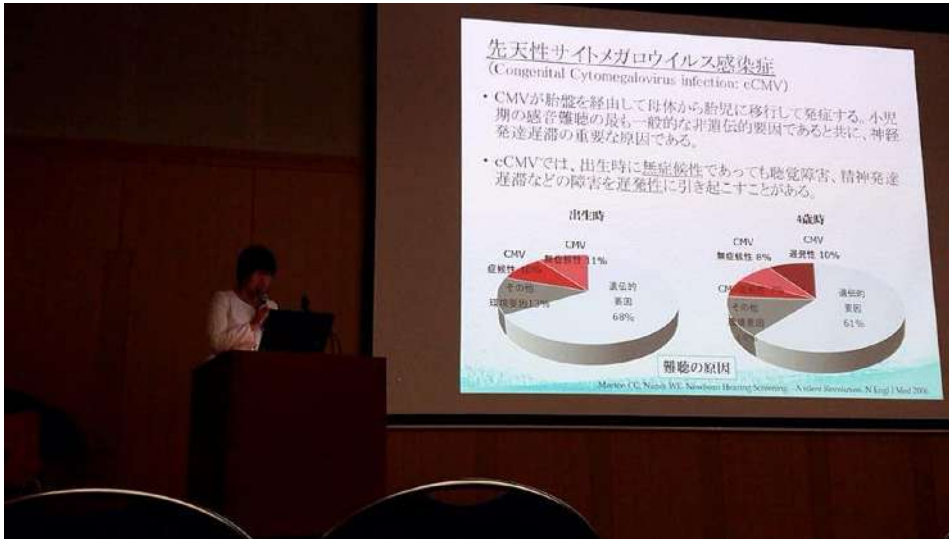


昨日、B8病棟の合同歓迎会を行いました。B8病棟では新しく耳鼻咽喉科後期研修医6名を含め、総合診療科、血液内科後期研修医の先生、新人看護師5名など、多数の新規スタッフを迎えております。今後も患者様に寄り添った医療を提供していけるように精進していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



2019/05/24 13:24





5月23-24日に、福岡で開催されている第14回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会(めざせ質の向上！多職種連携でつながるチーム医療)にて、当科から西村、森本が参加いたしました。

会場の福岡国際会議場は海の真横に立地し、眺めのよい会場です。

西村忠己講師は「外耳道閉鎖症における軟骨伝導補聴器の適応と効果」についてランチョンセミナー講演し、森本診療助教は「聴覚障害を合併した先天性サイトメガロウイルス感染症3例に対する抗ウイルス治療後の聴力経過」について発表しました。

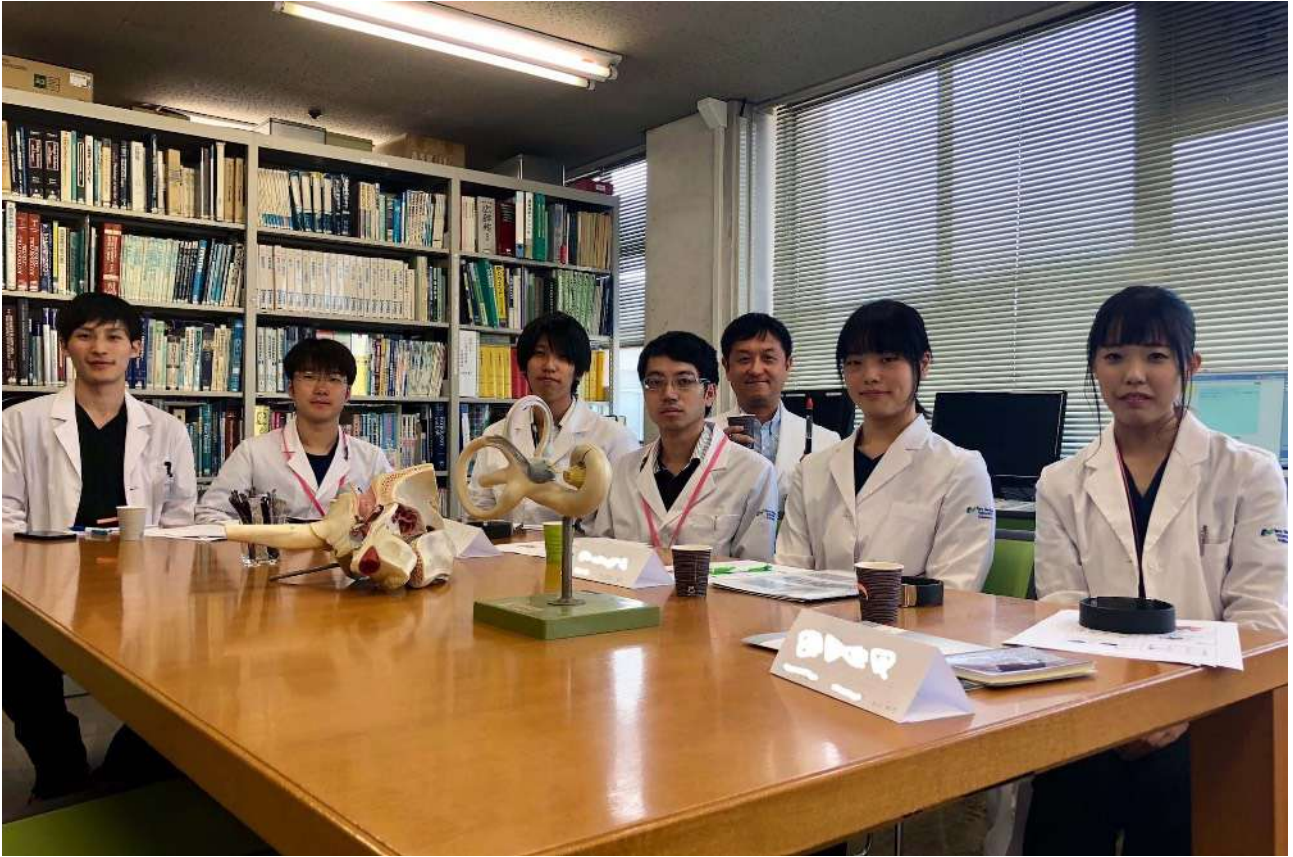
軟骨伝導補聴器は2017年の市販開始以降、その装用の容易さと聞こえの良さから装用者が増え続けています。今回の学会でも、多数のご聴講をいただき参加者の高い関心が伺えました。

先天性サイトメガロウイルス感染症は小児の難聴の原因として重要です。早期治療にて聴力が改善する例があるため、当院では複数科で連携を取りながら積極的に治療を行っています。

学会の副題にあるように、他科・他職種との連携協力を意識し、これからも日常診療に取り組んでまいります。



2019/05/24 18:52



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日午後は恒例の5回生1週ポリクリ・めまい総括の時間でした。ちょうど半数のポリクリ班が耳鼻咽喉科を勉強しに来てくれたようです。これから夏にかけて4w/8w選択ポリクリの希望科が調査されることとなります。耳鼻咽喉科では選択ポリクリ中に可能であれば関連学会にも同行していただく企画も考えています。参考までに。

2020年1月下旬、日本頭頸部外科学会@宜野湾市

2020年2月下旬、日本耳鼻咽喉科免アレ学会@横浜市

2020年3月中旬、日本喉頭科学会@横浜市

2020年5月中旬、日本耳鼻咽喉科学会総会@岡山市

2020年5月下旬、日本顔面神経研究会@松山市

2020年6月上旬、日本頭頸部癌学会@大阪市

2020年6月下旬、耳鼻咽喉科臨床学会@京都市

2020年7月上旬、小児耳鼻咽喉科学会@高知市



2019/05/27 13:42





令和元年5月26日日曜日、第5回畝火会ゴルフコンペが花吉野カンツリークラブで開催されました。森 望先生、細井裕司先生にもご参加いただき、絶好のゴルフ日和となりました。

結果はレギュラーの部で山本俊宏先生、シニアの部で佐伯和夫先生、女子の部で岩崎壽美先生が優勝しました。おめでとうございます。

今年は伊藤妙子先生、岩崎壽美先生、松村八千代先生と、女性ゴルファーが3名も参加くださいました。来年も是非参加していただき、コンペを華やかに盛り上げていただきたく思います。



2019/05/30 18:07



本日より、兵庫医科大学 形成外科 垣淵正男会長の下、新大阪ワシントンホテルプラザにて、第42回日本顔面神経学会が開催されています。当科 阪上雅治医員から、ハント症候群罹患後に遷延するめまいに関する検討を報告しました。

この学会は耳鼻咽喉科のみならず、形成外科、脳神経内科、脳神経外科、リハビリテーション科が参集し、顔面神経に関わる基礎研究、内科的治療、外科的治療、形成外科的治療を討議する、科の垣根を超えた興味深い学会です。

来年は愛媛大学主催で、道後温泉を楽しみながらの開催です。



2019/06/07 19:25



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日午後は恒例の5回生1週ポリクリ・めまい総括の時間でした。近畿地方の梅雨入りは例年6月の第一週あたりですので、ぼちぼち梅雨入りでしょうか。暑くてジメジメした季節の到来ですが、体調を崩さないよう、良い週末をお過ごしください。



2019/06/09 0:40



昨日、第28回奈良県耳鼻咽喉科感覚医学講習会がホテル日航奈良にて開催されました。特別講演1：日本大学・大島猛史教授に「耳管障害の臨床」、特別講演2：宮崎大学・東野哲也教授に「人工聴覚器医療 update」をご講演いただきました。

いずれのご講演も奈良県の耳鼻咽喉科医にとって明日からの実臨床に有意義な内容でした。ご遠方をお運びいただきありがとうございました。



2019/06/14 23:38





【学会報告】第43回日本頭頸部癌学会

2019年6月13日-14日、石川県金沢市で第43回日本頭頸部癌学会が開催されました。

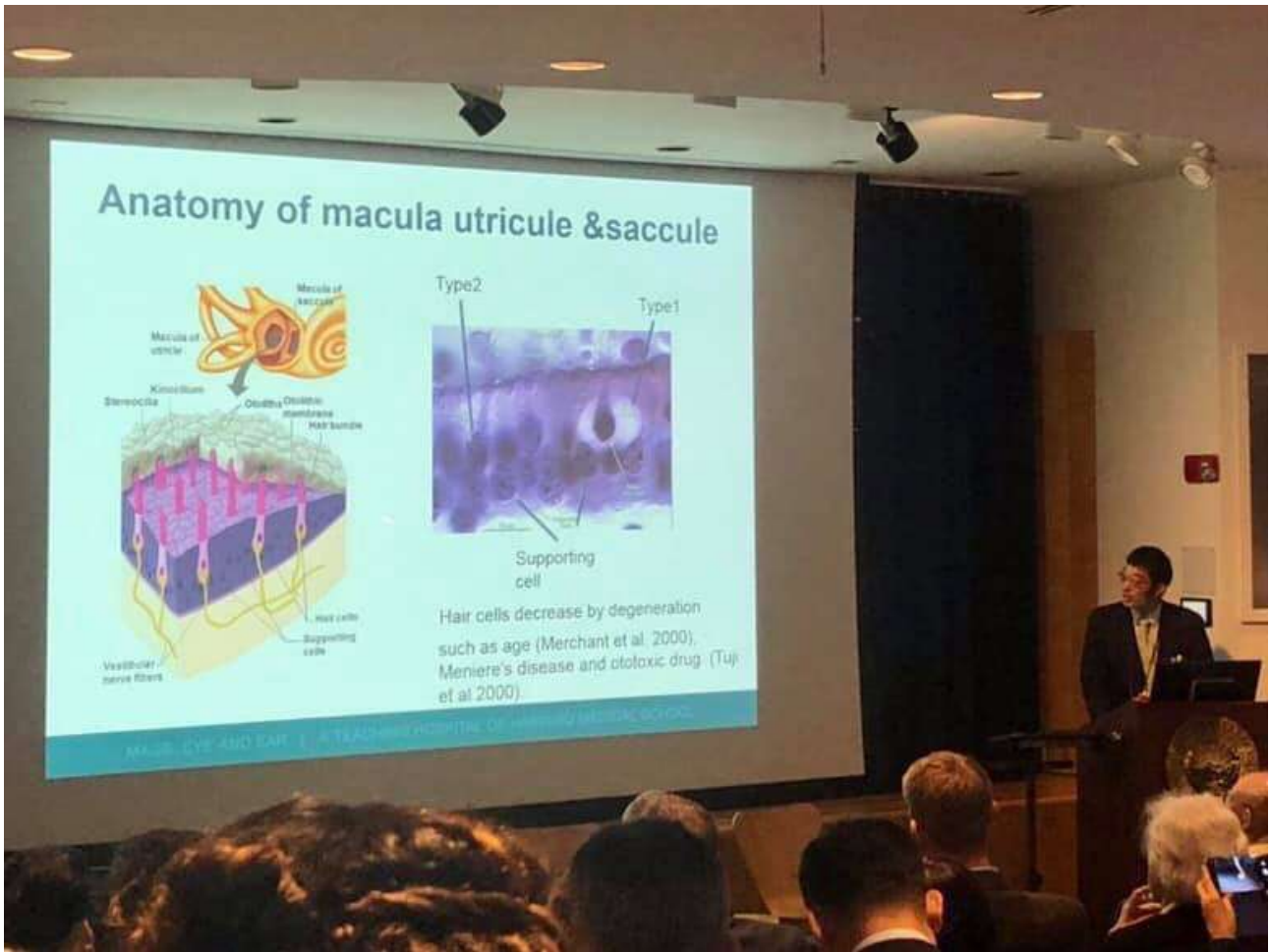
当科からは腫瘍グループ、関連病院を含め、11名のメンバーが参加・発表しました！日本の頭頸部がんと戦う仲間と昼夜を問わず大いに交流しました。また明日からの診療・研究活動に反映していきたいと思えます！

さらに毎年学会前日(6/13)に行われる恒例の頭頸部癌基礎研究会も第13回を迎え、120名を超える参加者で盛会に終わりました。その後の懇親会も大いに盛り上がりました。事務局担当の太田講師もホッとひと息です。

主催者の金沢大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科の先生方、スタッフの皆様には御礼申し上げます。

では、皆さま良い週末を！

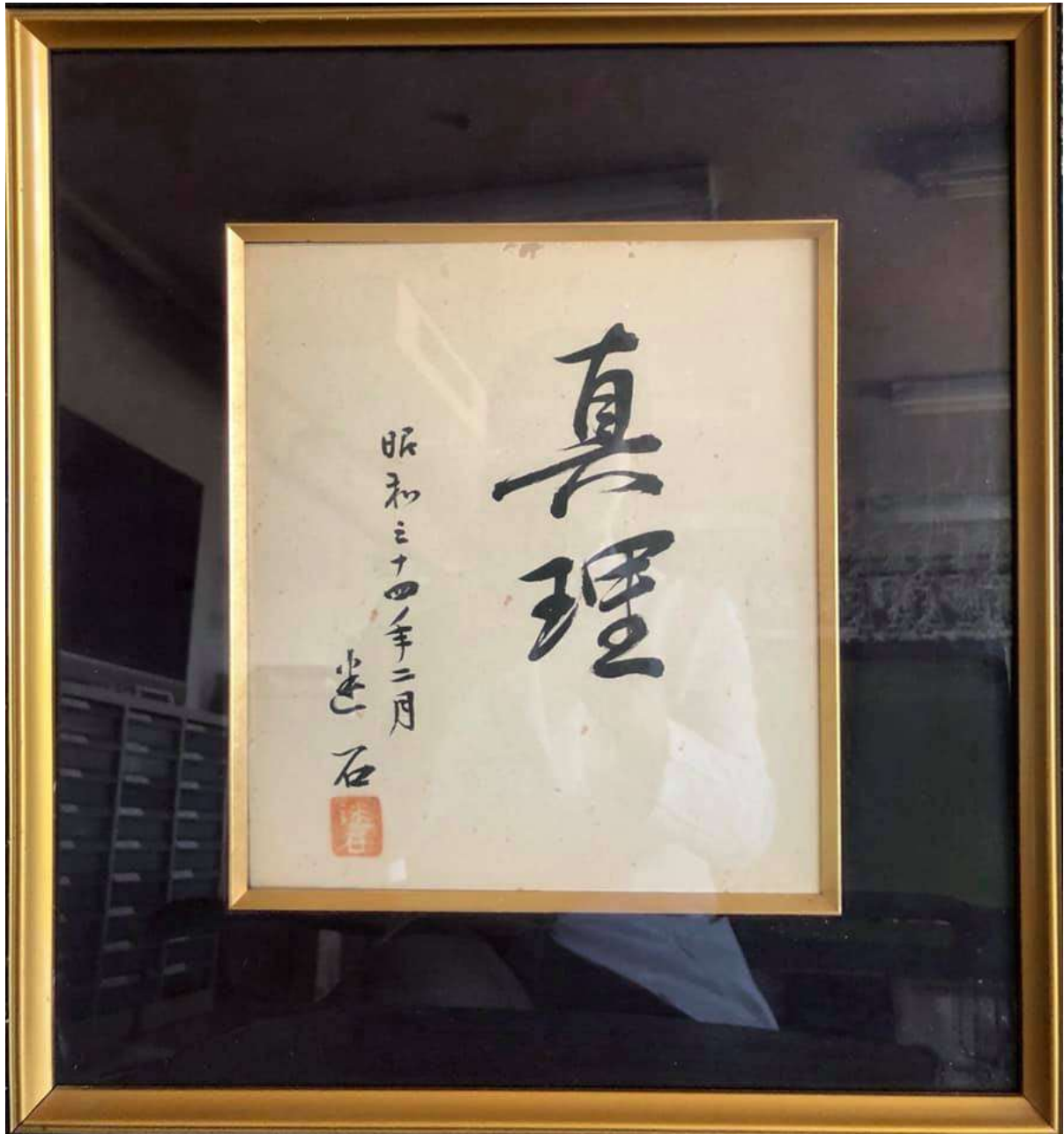
2019/06/17 17:04



当科から米国ハーバード大学・耳鼻咽喉科(Otopathology Lab)に留学中の岡安 唯です。2019年6月9-11日、ボストンで開催された15th Triennial International Otopathology Society(Schuknecht Society)に参加発表しました。今月末の帰国前に、留学中の仕事を無事に発表する事ができました。次回、3年後も奈良医大の若い先生方と参加したいと思います。



2019/06/20 17:02



先日、当教室・先々代教授の松永 喬御大から、「真理」という書を医局に飾るように頂戴しました。この書は、長崎大学—大阪市立大学—大阪大学と耳鼻咽喉科・教授として渡り歩かれた長谷川高敏先生直筆の書で、松永御大が大学院を卒業する際、研究は「真理」を解き明かすための手段であり、常に「真理」を探求する心を忘れないようにと、長谷川先生から贈られたとのこと。当教室から今後、耳鼻咽喉科学の「真理」を解き明かすような良い研究が発信できるよう、精進して参ります。ところで、長谷川高敏先生について少し。長谷川先生は戦時中の兵士空輸やパイロット訓練で問題となる動揺病の予防薬として、メイロンを開発した人物です。このメイロンは内耳迷路を文字って名付けられた7%炭酸水素ナトリウムの液体で、現在もめまい発作急性期には静注で頻用されています。治効機序についてはいまだ不明な点が多いのですが、開発当時は耳石を溶かすことによるのではないか、という大論争が展開されたようです。このような経緯もあり、「真理」を追求することは一筋縄ではいかない、迷路を彷徨い、寄り道、回り道をしながらやっと到達できるものとして、書の筆名を「迷石」とされました。



2019/06/21 17:53



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日午後は恒例の5回生1週ポリクリ・めまい総括「めまい救急トリアージ」の時間でした。ポリクリのお茶受けに、奈良医大・耳鼻咽喉科のロゴ入り瓦せんべいが期間限定で復活しました。平成26年から始まった男女参画の活気ある新教室を理想として描いたロゴになっています。ところで、新・専門研修制度が3年目を迎えますが、奈良医大・耳鼻咽喉科の2020年度プログラムを昨日6月20日付で公開しました。詳しくは当科ホームページ<http://www.naramed-u.ac.jp/~oto/>の「医局からのお知らせ」にアクセスください。また、来月7月19日には医局説明会を予定しています。詳しくは後日、アナウンスを予定しています。それに伴い、奈良医大・耳鼻咽喉科のホームページを一部更新しました。聴覚グループからの「軟骨伝導補聴器」、めまいセンターからの「耳石に優しいめまい対策マットレス」も併せてよろしく願います。それとFacebookがいつ営業ストップしても大丈夫なように、2014～2018年の出来事を青いバナーのArchivesとしてトップページ右下に貼っています。過去に当科ポリクリを回ってくれた方々の姿もすべて美しく保管されていますので、お時間のあるときに懐かしがっていただければ幸いです。それでは皆様、良い週末をお過ごしください。



2019/06/28 20:17





第81回耳鼻咽喉科臨床学会が、昨日、本々とウインクあいちにて開催されました。当科、そして関連病院からも多数発表を行いました。奈良医大からは研修医、学生も参加させていただき活発な討論をさせていただきました。



2019/06/30 17:29

Biochemistry and Biophysics Reports 19 (2019) 100649



Contents lists available at ScienceDirect

Biochemistry and Biophysics Reports

journal homepage: www.elsevier.com/locate/bbrep



Differentiation of embryonic stem cells into inner ear vestibular hair cells using vestibular cell derived-conditioned medium



Masaharu Sakagami^{a,b}, Yukiteru Ouji^{b,*}, Norikazu Kawai^b, Masayasu Misu^b,
Masahide Yoshikawa^{b,**}, Tadashi Kitahara^a

^a Department of Otolaryngology - Head and Neck Surgery, Nara Medical University, Kashihara, Nara, Japan

^b Department of Pathogen, Infection and Immunity, Nara Medical University, Kashihara, Nara, Japan

ARTICLE INFO

Keywords:

Embryonic stem cells
Vestibular
Inner ear
Hair cells
Differentiation
Conditioned medium

ABSTRACT

Vestibular hair cells (V-HCs) in the inner ear have important roles and various functions. When V-HCs are damaged, crippling symptoms, such as vertigo, visual field oscillation, and imbalance, are often seen. Recently, several studies have reported differentiation of embryonic stem (ES) cells, as pluripotent stem cells, to HCs, though a method for producing V-HCs has yet to be established. In the present study, we used vestibular cell conditioned medium (V-CM) and effectively induced ES cells to differentiate into V-HCs. Expressions of V-HC-related markers (*Math1*, *Myosin6*, *Btn3c*, *Dnah5*) were significantly increased in ES cells cultured in V-CM for 2 weeks, while those were not observed in ES cells cultured without V-CM. On the other hand, the cochlear HC-related marker *Lmod3* was either not detected or detected only faintly in those cells when cultured in V-CM. Our results demonstrate that V-CM has an ability to specifically induce differentiation of ES cells into V-HCs.

このたび、当科と吉川ラボの共同による内耳再生研究の成果が発表されました。内耳由来のめまいに対する治療は、急性期の内耳治療、慢性期の前庭リハビリテーションが奏功しない場合、未来医療としての最終手段、前庭再生医療か人工前庭機器の開発に期待がかかります。ということで、本研究は将来的なめまい治療の一翼を担っている、重要な内容と言えます。内容を簡記しますと、多能性幹細胞は特定細胞種への分化プロセス解明に有用なソースであり、再生医療において未分化な幹細胞を移植治療に用いる場合、腫瘍化のリスクを回避しつつ、適切な細胞に分化誘導する必要があります。これまでの研究では、内耳有毛細胞への分化には液性因子等の誘導因子が鍵になると考えられてきました。今回の研究では、マウスの内耳より採取した前庭由来細胞の培養上清を用いることで、ES細胞を内耳前庭有毛細胞様細胞へ特異的に分化する可能性を報告しました。OpenAccessですので、ご自由にご覧いただければ幸いです。



2019/07/03 17:19



奈良県立医科大学
耳鼻咽喉・頭頸部外科

2019.7.19 FRI
耳鼻咽喉・頭頸部外科医局
(3F)
19:30～ 医局説明会
20:00～ 懇親会
TEL：内線3435



Department of Otolaryngology-
Head and Neck Surgery,
Nara Medical University

本年度の入局説明会を2019年7月19日金曜日19:30から医局において開催いたします。対象は初期研修医・医学生となっておりますが、後期研修医や奈良医大耳鼻咽喉科と一緒に働きたいと考えている先生方も大歓迎です。参加希望の方は耳鼻科医局（内線3435）もしくは担当の山下までご連絡いただければ幸いです。

2019/07/05 17:17



本日、第2回軟骨伝導聴覚研究会が、慶應義塾大学病院2号館大会議室で開催されました。当科からは西村講師が講演を行い、共同研究者の大阪大学基礎工学研究科システム創成専攻システム科学領域の下倉准教授が発表をおこないました。軟骨伝導補聴器は奈良医大で開発し、市販にいたりました。現在海外での研究、販売に向けた準備を行っております。



2019/07/05 19:47



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日午後は恒例の5回生1週ポリクリ・めまい総括「めまい救急トリアージ」の時間でした。めまい業界にも少しずつですが、新しいアイデアが取り入れられ前進しています。めまいセンターで現在、最もお問い合わせの多いトピックスが、BPPVに対する「めまい対策マットレス」とメニエール病に対する「中耳加圧装置」です。いずれも取扱業者と奈良医大との契約など、一連のプロセスに時間を要しているところです。9月までには使用可能とのことですので、随時アナウンスして情報共有していきたいと思えます。蒸し暑い日が続きそうですが、体調管理に気をつけて、良い週末をお過ごしください。



2019/07/05 20:25



Three-Dimensional Magnetic Resonance Imaging Reveals the Relationship Between the Control of Vertigo and Decreases in Endolymphatic Hydrops After Endolymphatic Sac Drainage With Steroids for Meniere's Disease

Taeko Ito^{1*}, Hiroshi Inui^{1,2}, Toshiteru Miyasaka³, Tomoyuki Shiozaki¹, Shohei Matsuyama¹, Toshiaki Yamanaka¹, Kimihiko Kichikawa³, Noriaki Takeda⁴ and Tadashi Kitahara¹

OPEN ACCESS

Edited by:

Toshihisa Murofushi,
Teikyo University, Japan

¹ Department of Otolaryngology- Head and Neck Surgery, Nara Medical University, Kashihara, Japan, ² Inui ENT Clinic, Sakurai, Japan, ³ Department of Radiology, Nara Medical University, Kashihara, Japan, ⁴ Department of Otolaryngology, University of Tokushima School of Medicine, Tokushima, Japan

ACTA OTO-LARYNGOLOGICA
<https://doi.org/10.1080/00016489.2019.1630757>



RESEARCH ARTICLE



Relationship between changes in hearing function and volumes of endolymphatic hydrops after endolymphatic sac drainage

Taeko Ito^a, Hiroshi Inui^{a,b}, Toshiteru Miyasaka^c, Tomoyuki Shiozaki^a, Hiroto Fujita^a, Toshiaki Yamanaka^a, Kimihiko Kichikawa^c and Tadashi Kitahara^a

^aDepartment of Otolaryngology – Head and Neck Surgery, Nara Medical University, Kashihara, Japan; ^bInui ENT Clinic, Sakurai, Japan;

^cDepartment of Radiology, Nara Medical University, Kashihara, Japan

ABSTRACT

Background: Endolymphatic sac drainage (ELSD) may have a positive effect on endolymphatic hydrops (EH) and may help to preserve inner ear function. However, the relationship between changes in EH volumes and hearing function after ELSD has not been described.

Objectives: We aimed to reveal the factors related to changes in hearing and EH following ELSD.

Material and Methods: Twenty-one patients who received ELSD were enrolled. Pure tone audiometry and 3-T magnetic resonance imaging (MRI) 4 h after intravenous injection of gadolinium enhancement were performed just before surgery and 2 years later. To characterize the endolymphatic space (ELS), we measured the volume of the total fluid (TFS) and ELS and calculated the ratio of ELS to TFS (ELS ratio).

Results: The ELS ratio of the patients who showed hearing improvement was $18.5 \pm 11.4\%$ before surgery and $23.9 \pm 14.3\%$ after. For those with no change, it was $29.7 \pm 10.8\%$ before and $29.4 \pm 9.5\%$ after, and in patients with worsened hearing function it was $22.7 \pm 7.5\%$ before and $27.2 \pm 13.4\%$ after.

Conclusion: We found no correlation between the changes in hearing function and the volume of EH after ELSD.

ARTICLE HISTORY

Received 19 March 2019

Revised 6 May 2019

Accepted 17 May 2019

KEYWORDS

Meniere's disease; endolymphatic hydrops; sac surgery; hearing function; MRI



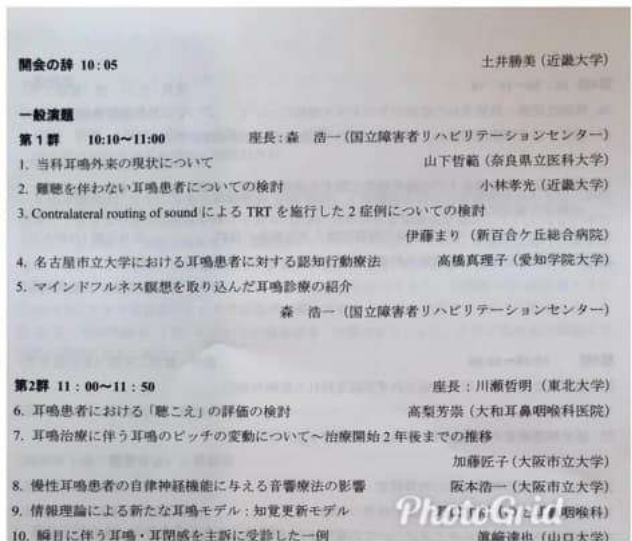
以前より当科では、AZE社のVirtual Placeソフトを用いて、内耳造影MRIの3D解析による内リンパ腔体積の数値化を試みています。今回掲載された2つの科学論文では、当科で難治性メニエール病に対して行っている内リンパ嚢開放高濃度ステロイド挿入術の前後において、めまい発作完全抑制症例では内リンパ腔体積は有意に減少するが、聴力改善と内リンパ腔体積変化に有意な相関は無い、ということがわかりました。

この解析法を用いて今後、内服治療前後、中耳加圧治療前後の内リンパ腔体積の評価を行い、各種治療法間の比較、治効機序の解明に勤しみたく思います。

前者はOpenAccessですので、FrontNeuroIからご自由にご覧いただければ幸いです。



2019/07/06 18:04



本日、慶應義塾大学病院新研究棟において、第5回耳鳴・難聴研究会が開催されました。当科の山下がトップバーターとして「当科耳鳴外来の現状」について発表しました。耳鳴治療は、本年5月に耳鳴治療ガイドラインが発刊され、耳鼻咽喉科医のなかでも関心が深まっていることもあり、活発な討論がなされました。



2019/07/15 19:44

ONCOLOGY REPORTS

Resveratrol-induced *REG III* expression enhances chemo- and radiosensitivity in head and neck cancer in xenograft mice

SHINJI MIKAMI^{1,2}, ICHIRO OTA¹, TAKASHI MASUI¹, TOMOKO UCHIYAMA³, HIDEYUKI OKAMOTO⁴,
TAKAHIRO KIMURA¹, SHIN TAKASAWA³ and TADASHI KITAHARA¹

¹Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Nara Medical University, Kashihara, Nara 634-8522;

²Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Bell Land General Hospital, Higashiyama,

Naka-ku, Sakai, Osaka 599-8247; ³Department of Biochemistry, Nara Medical University, Kashihara,

Nara 634-8522; ⁴Department of Otolaryngology, Nara City Hospital, Nara, Nara 630-8305, Japan

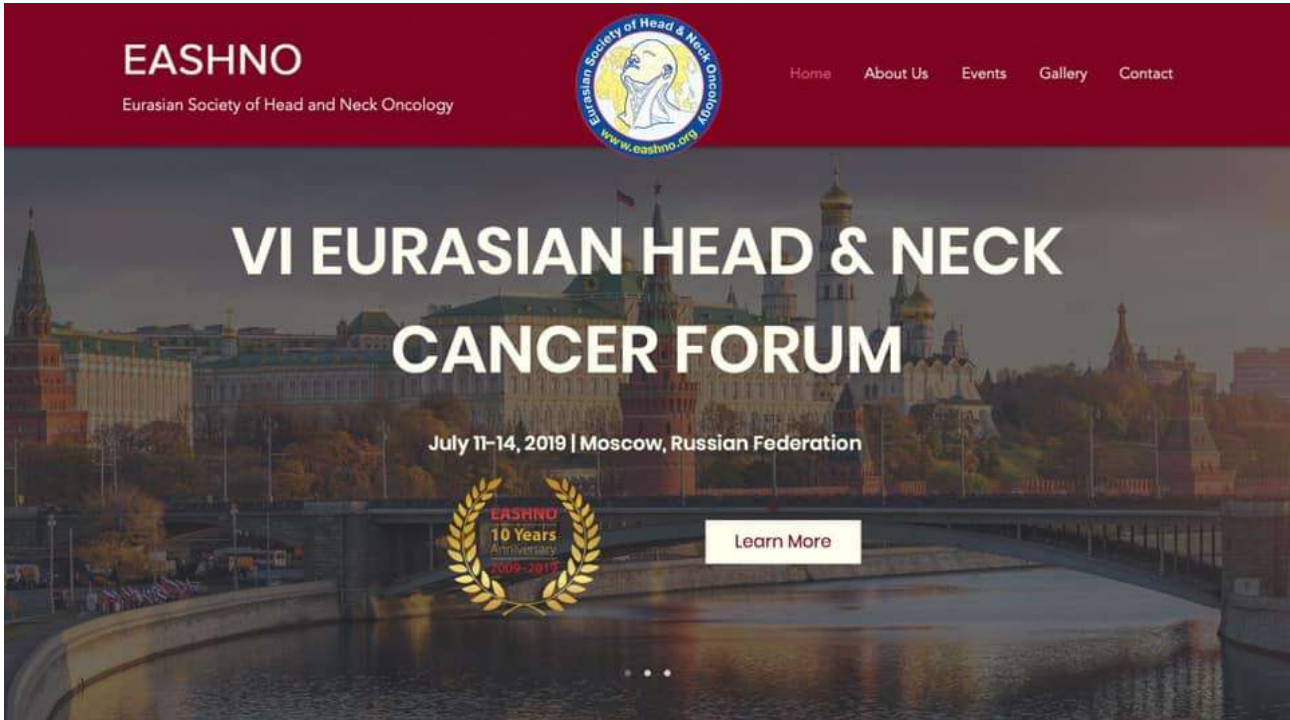
Received October 31, 2018; Accepted April 23, 2019

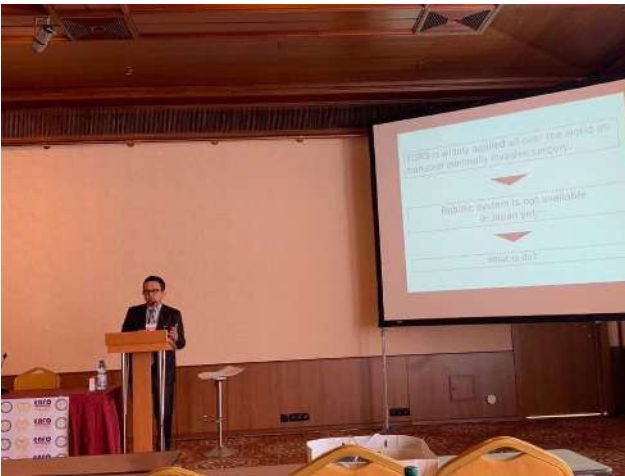
DOI: 10.3892/or.2019.7137

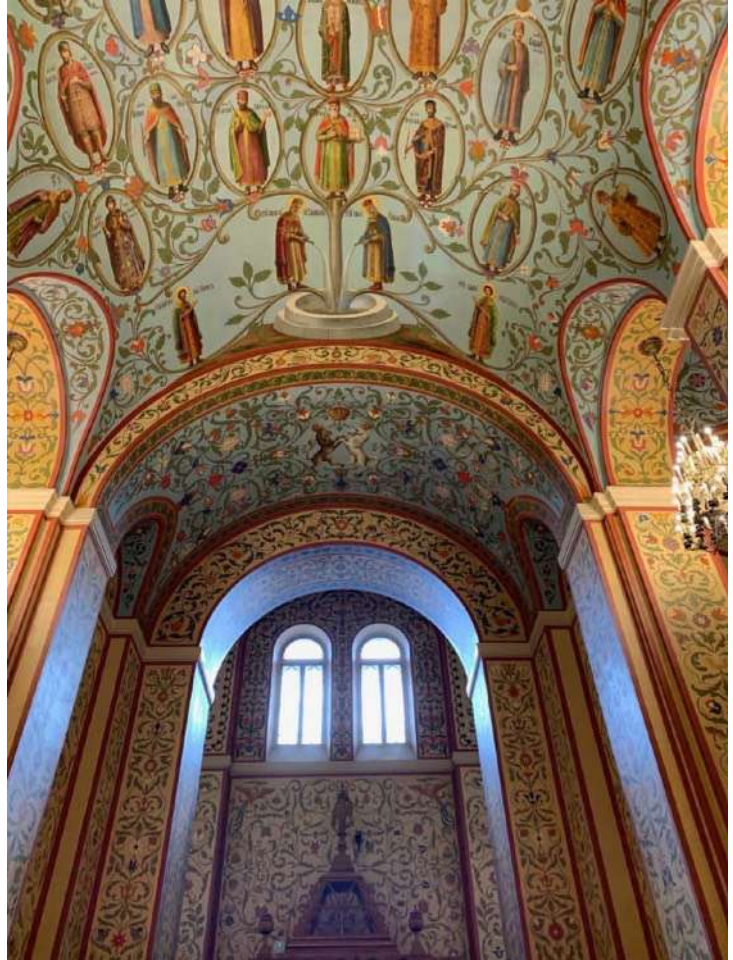
“赤ワインは頭頸部がんに効く!? パート2” 当科では、頭頸部がんに対する基礎研究のひとつとして、がんの浸潤・転移のメカニズムとその制御についての研究と共に、診断や薬の効果判定に役立つバイオマーカーに関する研究についても進めています。これまでに、本学生化学教室との共同研究において、REG IIIが頭頸部がんの予後改善のバイオマーカーとなり、さらに、赤ワインなどに含まれるポリフェノールの一種であるレスベラトロールが、REG IIIの発現を誘導する因子であることを見出してきました(Masui T, Ota I, et al. Int J Oncol. 44:693-699, 2014, Mikami S, Ota I, et al. Int J Oncol 49: 1553-1560, 2016)。そして、今回、レスベラトロールが、マウスを用いて生体でもこの作用を示すとともに、放射線治療や抗癌剤とともに用いることでその治療効果を増感させることを確認しました(Mikami S, Ota I, et al. Oncol Rep. 42:436-442, 2019)。今後の臨床応用が期待されます。今後も頭頸部がんの予後改善につながる研究を重ね、頭頸部がんの臨床に活かせる成果を発信して参ります。呉々もワインの飲みすぎにはご注意ください。



2019/07/16 6:17







2019/7/11~2019/7/14の日程で第六回ユーラシア頭頸部フォーラム(VI EURASIAN HEAD & NECK CANCER FORUM)に参加してきました。今回はロシアの首都であるモスクワでの開催され、当施設からは上村裕和、田中瑛久の2名が演題(oral presentation)を発表しました。まだまだ歴史の浅い学会で運営もスムーズとは言えない部分がありましたが、各自の発表では良いディスカッションができました。比較的近隣の様々な頭頸部外科医たちの行っている実臨床や考え方に触れて多くを学ばせてもらいました。初めての学会発表が海外となった田中先生は日本から参加の諸先生方の各セッションでのコメントや補足説明を聴いて良い刺激になったようです。

学会期間中お世話になった主催運営に携わって頂いた、Dr. SUBRAMANIAN Somasundaram、Dr. CHATURVEDI Pankaj、Dr. JEREMIC Branislavなど諸先生方、ならびに、会期中お世話になった吉本先生(国立がん研究センター中央病院)、大上先生(東海大学)、酒井先生(東海大学)に感謝を申し上げます。Dr. SUBRAMANIAN Somasundaramは日本人の我々に対して大変フレンドリーに対応してくれて(我々を Japanese Mafiaと呼んでいました)、Dr. CHATURVEDI Pankajは攻めの司会で皆を牽引して大変興味深いディスカッションをさせてくれました。Dr. JEREMIC Branislav は奈良を訪れたことが何度かあったらしく、その時の思い出を語ってくれました。

一方、学会の合間の街歩きでは、18世紀まで隆盛を誇ったロシアの一面をうかがい知ることができました。空の色合いとロシアの装飾を施した建物のマッチングが素敵でした。



2019/07/19 19:01



耳鼻咽喉・頭頸部外耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日午後は恒例の5回生1週ポリクリ・めまい総括「めまい救急トリアージ」の時間でした。夏休み直前のポリクリでしたが集中して頑張ってくれました。本日はこの後、耳鼻咽喉・頭頸部外科学の医局説明会を催します。一人でも多くのやる気のある先生方にお越しただければ嬉しく思います。



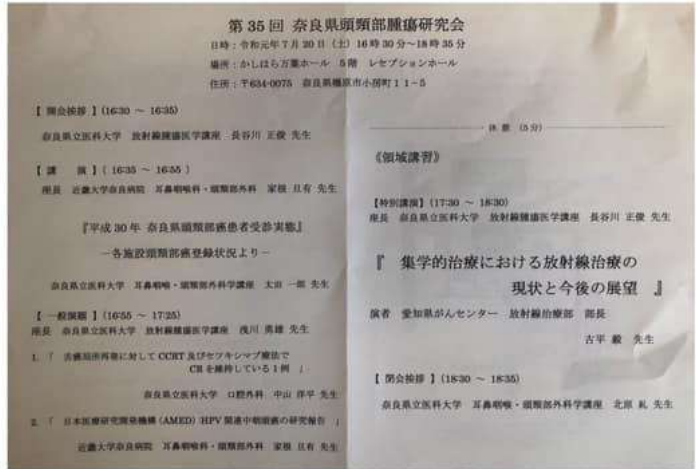
2019/07/19 23:55



令和元年7月19日、奈良県立医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座の医局説明会・懇親会を開催させていただきました。初期研修の先生方計6名の先生にご参加いただくことができました。お忙しい中、ありがとうございました。近い将来、一緒に働けるようになることを楽しみにしております。今後も随時研修、見学、入局相談等を行わせていただきます。お気軽にお問い合わせいただければ幸いです。



2019/07/20 22:01



第35回奈良県頭頸部腫瘍研究会が、万葉ホールで開催されました。当科より太田講師が「平成30年 奈良県頭頸部癌患者受診実態」について講演を行いました。



2019/07/29 8:35

第7回 頭頸部手術手技勉強会

テーマ：発声の改善と喉頭機能温存

- ①発声に関する基礎知識
- ②喉頭部分切除術（喉頭がんに対する治療）
- ③甲状軟骨形成術

関連病院その他施設、医学生、看護師の御参加を歓迎いたします。
参加施設、人数など以下のメールアドレスまでご連絡ください。

2018年8月2日 19:00 -20:30（夕食あり）

問い合わせ：
耳鼻科 西村在まで
内線：66388
Mail：ari.n@naramed-u.ac.jp

場所：臨床研究棟1F大会議室
対象：医学生、研修医、医師、看護師

主催：耳鼻咽喉・~~頭頸部~~外科 腫瘍グループ
共催：エチコン

2019年8月2日（金曜日）19:00から当学臨床研究棟1F大会議室において、第7回頭頸部手術手技勉強会を開催します。そもそもは奈良県立医科大学の関連病院の若手医師の技術力向上を目指して立ち上げた会ですが、府県の施設からもご参加頂いています。学会では質問できないような基本的なこと、工夫点、知っているつもりでいた解剖学など、面白い話が聞ける勉強会です。耳鼻咽喉科医、頭頸部外科医でなくても楽しく学んで帰ってもらえる勉強会だと思います。看護師、医学部学生、研修医の皆さんもご参加頂けると嬉しく思います。今回は音声機能、発声の改善を温存する治療と喉頭機能を温存する喉頭がんに対する治療について予定しています。奮ってご参加をお待ちしております。



2019/08/02 21:00



本日、第7回頭頸部手術手技勉強会を開催しました。今回のテーマは、「発声の改善と喉頭機能温存」でした。上村准教授と金澤助教から、音声外科・喉頭温存手術のための基礎知識と喉頭部分切除術のレクチャーがありました。また、大阪回生病院の蓮川医師に、甲状腺骨形成術の解説をさせていただきました。今回も、医局のみならず関連病院以外の先生方、病棟・手術室看護師など多数ご参加いただきました。



2019/08/21 21:50

細井 裕司 学長 お誕生日会のお知らせ

暑い日が続きますが、いかがお過ごしでしょうか。
今年も細井学長のお誕生日会を予定しております。
皆さまお誘いあわせの上、ご参集いただければ幸いです。

日時： 2019年 8月21日 19時30分～
場所： 食道楽 2F
〒634-0077
奈良県橿原市南八木町1-4-3
☎ 0744-22-3646



今年みんなの思い出の地での開催です！
ご意見、ご要望は、
耳鼻科 西村、伊藤までお願いします。





当科前教授・細井裕司学長のお誕生日会兼囲む会を、今年は懐かしの食道楽で開催させていただきました。
細井先生の耳鼻咽喉科現役時代にゆかりのある医局員、同門の先生、看護師等、大勢の方々にお集まりいただきました。

2019/09/03 14:04

Laryngoscope Investigative Otolaryngology
© 2019 The Authors. Laryngoscope Investigative Otolaryngology
published by Wiley Periodicals, Inc. on behalf of The Triological Society.

Head-Up Sleep May Cure Patients With Intractable Benign Paroxysmal Positional Vertigo: A six-Month Randomized Trial

Akira Horinaka; Tadashi Kitahara, MD, PhD ; Tomoyuki Shiozaki; Taeko Ito ; Yoshiro Wada;
Toshiaki Yamanaka; Kazuhiko Nario

Objectives: The aim of the present study was to assess head-position management for intractable idiopathic benign paroxysmal positional vertigo (BPPV) when lying down. We hypothesized that head-up sleep (HUS) could prevent free-floating otoliths from entering the semicircular canals.

Study Design: A prospective two-arm multicenter randomized controlled trial.

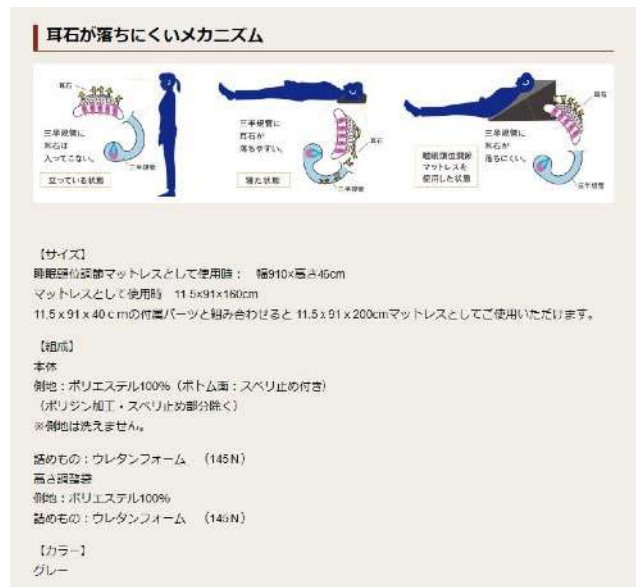
Methods: BPPV was diagnosed in 611 patients (611/1,520; 40.2%) according to the 2015 diagnostic guidelines issued by the International Classification of Vestibular Disorders. Among them, 201 patients were intractable (201/611; 32.9%), 88 of whom were idiopathic and subsequently enrolled in the study. Patients randomly received intervention with HUS at greater than 45° (n = 44) or head-down sleep (HDS; n = 44) when lying down. Before treatment, they completed several examinations, including subjective visual vertical (SVV). The specific diagnoses for the 88 patients with BPPV included horizontal type cupula (n = 40), horizontal type canal (n = 13), posterior type (n = 26), and probable and/or atypical BPPV (n = 9).

Results: Patient backgrounds did not differ significantly between the HUS and HDS groups. Visual analog scale (VAS) scores of vertiginous sensation were significantly lower in the HUS group than in the HDS group at both the third month and sixth month post-treatment. Positional/positioning nystagmus observed just before treatment disappeared significantly more often in the HUS group than in the HDS group until the sixth post-treatment month. Further, especially in HUS group, VAS scores in SVV- group (n = 24) were significantly lower than those in the SVV+ group (n = 20) sixth month post-treatment.

Conclusions: Controlling free-floating otoliths is not easy due to aging of the otolith organs. Repeatedly returning the endless free-floating debris from the canals to the utricle through physical means is not a good strategy. Therefore, HUS when lying down at home could be recommended as an initial treatment for patients with intractable idiopathic BPPV.

Key Words: Intractable idiopathic BPPV, subjective visual vertical, head-up pillows, free-floating otolith, semicircular canals.

Level of Evidence: 1b



ご存じの方もおられるかと思いますが、9月3日は“ぐっすり”を文字って「睡眠の日」です。この日を期して、昭和西川(株)から「耳石に優しい~睡眠頭位調節マットレス」がオンラインで発売開始されました。



超高齢社会において、耳石は剥がれやすく、寝るとき三半規管に落ちやすくなります。すなわち、良性発作性頭位めまい症(以下BPPVと呼びます)で悩む患者さんは年々増加することになります。就寝するとき上半身を45度起こして寝た人の方がフラットに寝る人より、BPPVに伴う頭位めまい症状が改善されることを証明した論文が、このたびLaryngoscope Investigative Otolaryngology (4巻：353-358頁、2019年)に掲載されました。このコンセプトをもとに、昭和西川(株)と共同開発した枕が「耳石に優しい～睡眠頭位調節マットレス～」です。

人類は二足歩行になり、仰向けに寝る習慣を身につけました。平和ボケした我が家の北海道犬は毎晩ヘソ天で寝ておりますが、野生動物たちは皆、敵が襲来したときに備えてうつ伏せで寝ます。剥がれた耳石が寝るときに三半規管に落ちこむのは、仰向けに寝る人間だけに起こる病気なのかも知れません。また、織田信長は50歳で亡くなりましたが、現在人類100歳時代と言われ始めています。もし耳石が老化により60歳頃から頻繁に剥がれるようになると仮定するならば、織田信長の時代にBPPVというめまいの病気は、仰向けに寝ているにも関わらず、ほとんど存在しなかったでしょう。この2つの事柄を考え合わせると、近く到来する超高齢社会において、BPPVは増加の一途をたどると思われま。

めまい診療医もめまい患者さんも、BPPVはほとんどが自然治癒する予後良好な病気であるということを知るだけでなく、上半身を45度起こして寝なければ誘発性浮動感に一生苛まれる難治性もあり得る、ということを理解していただきたいと思っています。

奈良医大めまいセンターHP：<http://www.naramed-u.ac.jp/~oto/patient/memai-center.html>

昭和西川ストアオンライン：<https://www.nishikawa-store.com/fs/futon/2228489000931>



2019/09/04 20:35



本年度も側頭骨臨床解剖実習を解剖実習室で執り行っております。関連病院のレジデントの先生方も含め多くの先生方にご参加いただき、手術顕微鏡下に実習、モニター下に指導で、3献体並列で行っております。実施に際しまして、第一解剖学、第二解剖学、脳神経外科学教室の先生方には大変お世話になりました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。



2019/09/08 12:38



20190905(Thu)-07(Fri)にかけて、日韓ジョイントでめまい平衡研究会が開かれました(呼称: ISNNconf)。第2回はProf. Kyusung Kimの音頭で仁川国際空港近くに位置する仁荷大学医学部耳鼻咽喉科にて開催されました。韓国ソウルからSNUのProf. Jawon Koo、日本から新潟大学の堀井 新教授と当科の北原が参加しました。

来年の第3回は東京オリンピックや国際バラニー学会の影響の無い、10月初旬に当科で開催予定です。日韓が協力して当該分野に新たな成果を挙げられるよう、切磋琢磨していくことで合意しています。



2019/09/08 13:12

第3回奈良-大阪めまい研究会
Nara-Osaka Vertigo Encirclement (NOVE)

謹啓 先生方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。
この度、下記日程にて開催させて頂く運びとなりました。
ご多用中とは存じますが、ご出席賜りますようよろしくお願い申し上げます。 謹白

【日時】 令和元年9月7日(土) 18:00~20:10
【場所】 シェラトン都ホテル大阪 3F 三笠の間
大阪市天王寺区上本町6-1-55 Tel:06-6773-1111
近鉄上本町駅直結 地下鉄谷町線・千日前線「谷町九丁目駅」より徒歩5分

情報提供 18:00 ~ 18:10
「アレルギー性鼻炎治療薬 ナゾネックスについて」 杏林製薬株式会社

一般講演 18:10 ~ 19:10

座長:奈良県立医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 教授 北原 紘 先生

- ・「患者アンケートによる抗ヒスタミン剤選びー効果重視型か眠気軽減型かー」
耳鼻咽喉科川本医院 院長 川本 将浩 先生
- ・「当院での難治性めまいに対するめまいリハビリと認知行動療法」
吹田市民病院 耳鼻咽喉科 山戸 章行 先生
- ・「メニエール病患者の適応能力について - EQSを用いて - 」
大阪市立大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉病態学 神田 裕樹 先生

特別講演【領域講習】 19:10 ~ 20:10

座長:大阪市立大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉病態学 准教授 角南 貴司子 先生

「WHO国際疾病分類収載の慢性めまい疾患
:持続性知覚性姿勢誘発めまいについて」
新潟大学大学院医歯学総合研究科
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野 教授 堀井 新 先生

※2019年度より学会参加登録と専門医講習受講登録に会員情報新システムが導入されています。
日耳鼻会員に郵送されております「日本耳鼻咽喉科学会会員カード(ICカード)」をご持参下さい。
「日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科専門医証(旧カード)」は使用できませんのでご注意ください。
特別講演は専門医講習の対象となりますので、講演開始後の途中入場・退出の場合は認められません。
※専門医講習実施の規定により、本会は日耳鼻専門医学術参加票の対象ではございません。



昨日は第3回奈良-大阪めまい研究会がシェラトン都ホテル上本町で開催されました。

今回は大阪市立大学医学部耳鼻咽喉病態学の角南貴司子先生に当番世話人をお願いして、「めまいと精神神経疾患」をトピックスとする一般講演と特別講演が組まれました。一般講演は吹田市民病院の山戸章行先生、市大の神田裕樹先生に参加いただき、特別講演は新潟大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の堀井新先生に「WHO国際疾病分類収載の慢性めまい疾患: 持続性知覚性姿勢誘発めまいについて」を講演いただきました。

来年の第4回本研究会は、奈良県立医科大学の当番世話人で、国際バラニー学会と重ならないような同時期に同会場で開催予定です。めまいにご興味のある多くの先生方に、是非上本町までお越しいただきたく思います。



2019/09/12 15:46



奈良県立医科大学耳鼻咽喉科で開発された軟骨伝導補聴器は、当科での国内臨床試験を経て、我が国では2017年11月から発売開始されています。今後この新しい補聴器を世界に広めていくため、2020年3月から米国ミシガン大学での臨床試験が開始されます。

臨床試験は「外耳道閉鎖症患者に対する軟骨伝導聴器とBAHA(埋め込み型骨導補聴器)のランダム化比較試験」で、ミシガン大学耳鼻咽喉科・Dr. Emily Stuckenと当科・西村忠己講師の共同研究として行われます。



2019/09/13 20:32



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。本日午後は夏休み明け最初の5回生1週ポリクリ・めまい総括「めまい救急トリアージ」の時間でした。先日「睡眠の日」に発売開始されました奈良医大MBT×昭和西川(株)の共同開発「耳石に優しい睡眠頭位調節マットレス」が、10月には東京メトロで中吊り広告され、NHKガッテン！においても取り上げられます。乞うご期待ください。

2019/09/15 1:16



昨日ホテルフジタにて、奈良県耳鼻咽喉科漢方セミナーが開催されました。一昨年、昨年と続いたセミナーから装い新たに、第3回のセミナーということになります。教育講演ではまえだ耳鼻咽喉科クリニック院長・前田稔彦先生に「感染症と薬剤耐性対策—グラム染色と漢方の活用方法—」について、特別講演では横浜市立大学医学部耳鼻咽喉科教授・折館伸彦先生に「胃食道逆流症に伴う咽喉頭症状のマネージメント」について、ご講演いただきました。奈良県では漢方を古くから栽培するなど、奈良県と漢方薬との関係には歴史があります。この漢方セミナーをきっかけに、漢方薬が効いたという単純な症例報告ではなく、耳鼻咽喉科疾患に対する漢方薬の有効性を、臨床と基礎の両面からアプローチしていきたいと考えております。



2019/09/21 11:29



昨日、9月末で異動になる3人の若手先生方の送別会を行いました。半年間の大学勤務を終えて、それぞれ癌専門病院、地域の基幹病院にうつることになります。大学病院とは異なる疾患の治療を多く経験し、将来その経験をいかせるようにがんばって欲しいと思います。



2019/09/26 19:39



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。明日出張のため、本日本曜午後は5年生1週ポリクリ・めまい総括「めまい救急トリアージ」の時間でした。既に来年からの選択ポリクリの割振が決定されたとのこと。耳鼻咽喉・頭頸部外科学では実習の一環として、選択ポリクリの学生さんには耳鼻科全国学会に同行してもらっています。来年は沖縄・宜野湾を皮切りに、横浜、東京、岡山、松山、高知で耳鼻科各分野の学会が開催されます。是非ご一緒していただき、興味を持ってもらえたら嬉しく思います。



2019/10/05 23:43

第89回奈良県耳鼻咽喉科講習会プログラム

司会 近畿大学医学部奈良病院 家根 旦有

開会の辞 日耳鼻奈良県地方部会 会長 奈良県立医科大学 北原 紘

情報提供 (16:00~16:15)
アレルギー性疾患治療剤「ルバフィン錠」について
田辺三菱製薬株式会社 内垣 雄

保険に関する話題 (16:15~16:30)
保険医療委員長 庄司 和彦

特別講演 (16:30~17:00)
座長 天理よろづ相談所病院 堀 龍介

I. 当科におけるアレルギー性鼻炎の診療
南奈良総合医療センター 関沙織

II. 当科におけるアレルギー性鼻炎に対する手術治療 ~薬物療法も含めて~
奈良県総合医療センター 松山尚平

特別講演Ⅲ (17:00~18:00) (領域講習)
座長 奈良県立医科大学 北原 紘

「経口的咽喉頭部分切除術 TOVS」

防衛医科大学校
耳鼻咽喉科学講座
教授 塩谷 彰浩 先生

閉会の辞 奈良県耳鼻咽喉科医会 会長 大橋 一博

○特別講演<領域講習>の途中退席はお控えください。





本日、第89回奈良県耳鼻咽喉科講習会が奈良ホテルで開催されました。一般演題では、南奈良総合医療センターの関 沙織先生が「当科におけるアレルギー性鼻炎の診療・専門外来」について、奈良県総合医療センターの松山尚平先生が「当科におけるアレルギー性鼻炎に対する手術治療」を講演しました。特別講演には、防衛医科大学校 耳鼻咽喉科学講座 教授の塩谷彰浩先生をお招きして「経口的咽喉頭部分切除術」についてご講演いただきました。以前は外切開が常識だった咽喉頭の悪性腫瘍に対する手術が、今や低侵襲・機能温存を目指す内視鏡へと変遷してきた過程を、実際の手術ビデオを交えて興味深くお話しいただきました。



2019/10/06 16:32



聞こえの相談会

補聴器と人工内耳

〈プログラム〉 ○講演 「難聴と治療」
奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学
難聴外来 補聴外来担当 西村 忠己 先生

○体験談 ○質疑応答 ○個別相談
人工内耳メーカー・補聴器販売店による製品の展示もあります

日時 2019年 10月6日(日) 午後1時～午後4時
会場 大和高田市市民交流センター「コスモスプラザ」2階 交流スペース
参加費 無料 申込み不要

主催 奈良県聴覚障害者支援センター
TEL 0744-21-7880 FAX 0744-21-7888

共催 : 奈良県中途失聴・難聴者協会
協賛 : 株式会社 日本コクレア
協力 : 人工内耳メーカー
補聴器販売店

大和高田市市民交流センター
「コスモスプラザ」
〒635-0085 奈良県大和高田市片場12-5
近鉄南大阪線 高田市駅から北へ徒歩約5分
〈お願い〉 駐車スペースはわずかです。公共交通機関もしくは駐車場のパークイングをご利用ください。

情報保障に関して
当日は要約筆記、ヒアリンググループを設置しますので、聞こえにくい方でも安心して参加できます。
要約筆記…手話がわからない聴覚障害者のためにパソコンやOHOを使用し、話されている内容をスクリーンに投影して知らせるコミュニケーション補助手段です。
ヒアリンググループ…補聴器のスイッチを切り替えることにより、マイクを通した話者の声が直接補聴器に入るシステムです。雑音に覆われないので、きれいに聞こえます。

この集いは、障害の有無に関係なく、どなたでも参加できます
ご友人やお知り合いをお誘い合わせのうえ、ぜひご来場ください

奈良県聴覚障害者支援センター 検索



本日、大和高田市市民交流センターコスモスプラザにて「聞こえの相談会」が開催されました。西村忠己講師が「難聴と治療」の講演をおこないました。講演後の相談会には、西村講師の他、山下学内講師と岡安唯助教が相談員として難聴患者の相談に対応させていただきました。



2019/10/11 16:07



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原仮面です。本日は5回生1週ポリクリ総括です。連休前ではありましたが、みんな元気にパシッとそれぞれの課題をまとめてくれました。現在、史上最大級の台風が日本接近中です。その最中、耳科学会も山形で盛大に行われていますが、くれぐれも災害には気をつけて、良い週末をお過ごし下さい。



2019/10/11 16:31





第29回日本耳科学会学術講演会が山形市の山形テルサ・メトロポリタン山形で開催されております。当科、関連病院から11題の講演を明日も含めて行います。会場では、3Dで見ることができる側頭骨削開デモンストレーションや研究意欲をかりたてる側頭骨病理自由観察ブースなど、非常に有意義な時間を過ごすことができる工夫が目白押しでした。残念ながら台風接近のため、明日の交通手段がなくなり、急遽本日帰宅することになる先生方も多数存在することになりました。学会の開催に支障がでないことはもとより、日本各地に台風被害がでないように祈念いたします。

2019/10/22 1:31

第78回
日本めまい平衡医学会総会・学術講演会
モーニングセミナー

※朝食・ドリンク付き

テーマ：原因不明のめまい症へのアプローチを考える

日程 2019年10月25日（金）

時間 8:30～9:30

場所 富山国際会議場 第一会場（3F・メインホール）

座長 将積 日出夫 先生
富山大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 教授

演者 北原 紘 先生
奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 教授

セミナー内容
高齢者のめまい疾患は統計上、良性発作性頭位めまい症と原因不明のめまい症の割合が増大する。超高齢社会において、このことにごどう対処してめまい診療していくかが鍵となる。原因不明のめまい症に抗めまい薬を処方するしかない毎日に嫌気がさしているDrに捧げる。

◆奈良医大MBT x 昭和西川(株)の共同開発した、「耳石に優しい睡眠頭位調節マットレス」のご紹介

◆10月23日水曜 19:30-20:45 放映のNHKガッテン!に取り上げられた内容のご紹介

◆領域講習に該当します

《共催》

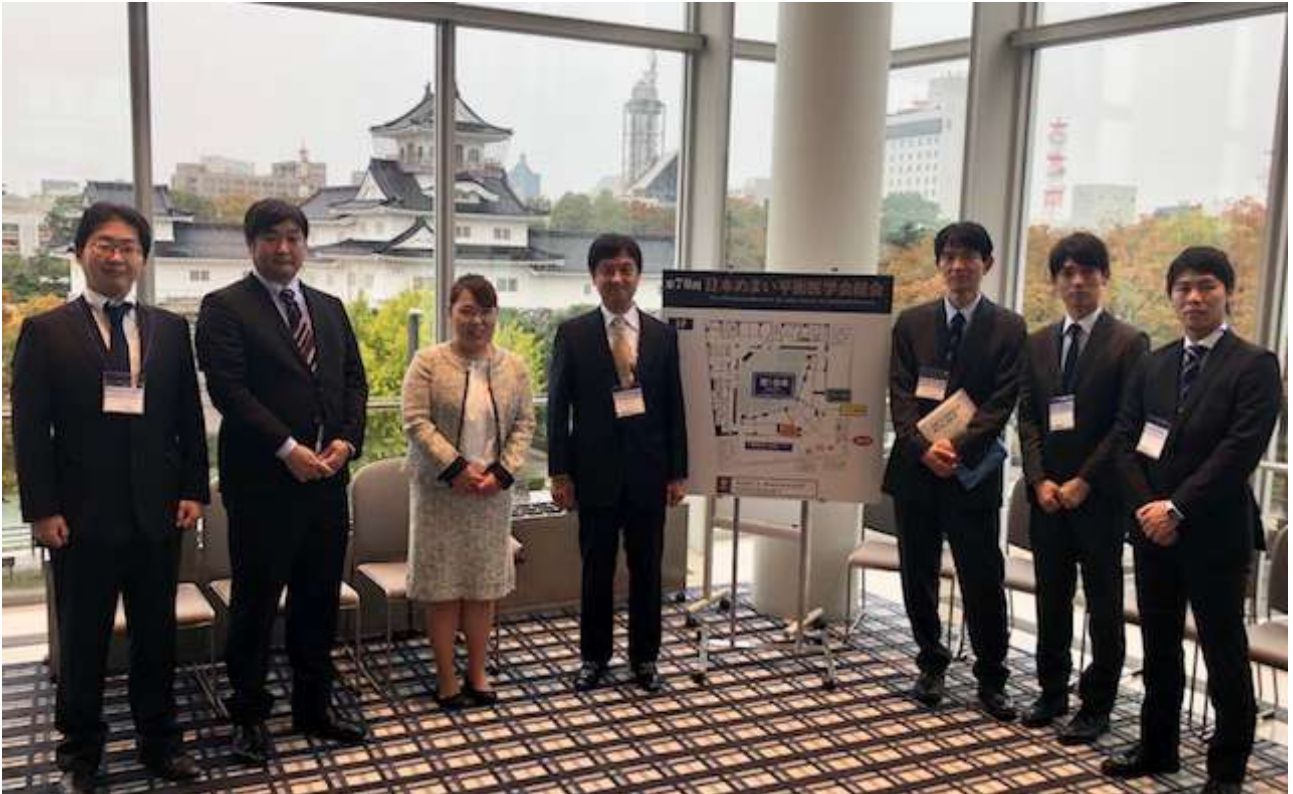
第78回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会/昭和西川株式会社



いよいよ明日10/23水曜から10/25金曜にかけて、日本めまい平衡医学会が富山で始まります。10/25金曜朝のモーニングセミナーでは、奈良医大MBTと昭和西川(株)が共同開発した「耳石に優しい睡眠頭位調節マットレス」を中心に、原因不明のめまい症撲滅に向けた活動をお話しさせていただきます。 <https://www.showanishikawa.co.jp/news/2019/09/000097.html> この活動に関しまして、明日10/23水曜のNHKガッテン!および来月11/11月曜から11/17日曜までの東京メトロ中吊り広告としても取り上げられます。 <http://www9.nhk.or.jp/gatten/articles/20191023/index.html> ちなみにNHKガッテン!では、私の幼少期の再現VTRが放映される予定です。父・正章役を木村祐一さん(通称キム兄)が熱演くださり、興味深い仕上がりになっています。お時間お有りの方は是非ご覧ください。



2019/10/25 12:26





第78回日本めまい平衡医学会が、2019年10月23日(水)—25日(金)まで、富山国際会議場で開催されています。当科、関連病院からは、北原モーニングセミナー、山中ランチョンセミナー、塩崎シンポジウムを含む、合計13題の演題を持って参加しています。本学会の特色であるポスター発表では、当科・松村八千代医員の「高齢期めまい症例におけるフレイルと平衡機能の関係についての検討」が最優秀ポスター賞を受賞しました。

ところでこのたびの代議員総会において、2022年の第81回本学会を、奈良県立医科大学の担当で開催させていただくことが決定されました。関係者の皆様方には厚く御礼申し上げますとともに、内容のしっかりした学会になるよう鋭意準備して参りますので、多くの先生方のご参加をお待ちしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



2019/10/25 20:43



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原仮面です。富山では第78回日本めまい平衡医学会が盛大に開催されています。それに負けじと医局でも北原仮面による5回生1週ポリクリ総括が軽快に行われました。症例報告とそのテーマ・考察をしっかりとまとめて頂きました。いまだ天気は不安定ですが、週末はどうか持ち直すようです。皆様良い週末をお過ごしください。



2019/10/27 0:49



昨日2019年10月26日(土)に、第35回日本耳鼻咽喉科漢方研究会が、東京医科歯科大学の担当で、東京コンファレンスセンター品川にて開催されました。本研究会の主題は「漢方治療の導入からエビデンスの創出へ」ということでしたので、当科からは伊藤妙子医員がめまい動物モデル、北野公一医員が耳鳴動物モデルについての基礎演題を発表しました。動物モデルの確立は、まさに漢方治療のエビデンス創出への近道であると考えます。共通講習では同門の前田稔彦先生が、「感染症とAMR対策—グラム染色と漢方の活用方法—」について講演されました。



2019/10/30 13:05

いつもありがとうございます。お陰様で先日、当FBサイトへの「いいね！」が1100件に到達しました。当FBサイト「いいね！」1100人目は枚方市在住のAM様、応援ありがとうございます。皆様のご期待にそえるよう頑張っております。よろしくお願ひ申し上げます。

ちなみに先日、医事新報社に「奈良医大耳鼻科のこれまでとこれから」を執筆しました。下に記します。



2019/11/08 18:01





第64回日本聴覚医学会が、2019年11月7日(木)—8日(金)の日程で大阪国際会議場にて開催されました。

細井裕司学長がシンポジストで講演、西村忠己講師が軟骨伝導補聴器だけのセッションで座長をつとめました。

当科からは岡安唯助教、森本千裕診療助教、斎藤修言語聴覚士、済生会中和病院からは赤坂咲恵医師、母子医療センターからは大塚進太郎医師含め7演題発表し、活発な議論をいただきました。

奈良医大が開発し、2017年に市販化された軟骨伝導補聴器についての発表は全12演題と過去最高の演題数でした。



2019/11/08 20:18



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。耳科学会、めまい学会の日程がちょうどポリクリ総括とかち合ったため、本日金曜午後は2ヶ月ぶりの5回生1週ポリクリ・めまい総括「めまい救急トリアージ」の時間でした。細井裕司学長の立ち上げられたMBT：医学を基礎とするまちづくり、そのMBT認定第一号商品として「耳石に優しい～睡眠頭位調節マットレス」が奈良医大耳鼻科 x 昭和西川(株)の共同開発で誕生しました。医学と企業のコラボを促進させるべく、11月11日月曜から17日日曜まで、東京メトロ車内にて中吊り広告させていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



2019/11/09 21:13





本日、奈良県耳鼻咽喉・頭頸部外科セミナーが大和郡山市のLe BENKEIで開催されました。
特別講演では、東邦大学医学部耳鼻咽喉科学講座教授 和田弘太先生に「理論的に進める内視鏡下鼻副鼻腔手術」を、帝京大学医学部附属溝口病院耳鼻咽喉科教授 室伏利久先生に「メニエール病と前庭性片頭痛:めまい発作を反復する二大疾患」についてご講演いただきました



2019/11/12 23:06





フィリピン・マニラで開催されているアジア・オセアニア産婦人科連合(The Asia & Oceania Federation of Obstetrics & Gynaecology (AOFOG)) に当科から森本千裕が参加しました。

2017年にThe Journal of Obstetrics and Gynaecology Research (JOGR)にpublicationされた

" Effects of noise exposure on neonatal auditory brainstem response thresholds in pregnant guinea pigs at different gestational periods "

がJOGRで過去2年間に発表された最高の論文に送られるYuji Murata Endowment Awardを受賞し、AOFOGから招待を受け授賞式に参加いたしました。

同学会大会長が主催するプライベートパーティーにも招待されました。フィリピンの伝統音楽と共に、アジア・オセアニアの次世代のリーダーとなる産婦人科フェローの認定授与式も行われました。九州大学の産婦人科教授の加藤聖子先生から賞状を、大会長のDr. Ravi Chandranから記念メダルをいただきました。

産婦人科の国際学会は初めてですが、参加者のほとんどが女性であり、アジアの女性の凄いパワーを感じました！

このような機会を与えていただき、ご指導をいただいた成尾一彦先生、西村忠己先生、医局員の先生方、そして温かく見守って頂きました北原紘教授に心より御礼申し上げます。

文責:森本

2019/11/22 10:02

泉北耳鼻咽喉科セミナー2019

日時：2019年11月21日(木) 18:00~19:10
場所：ベルランド総合病院 地下1階 AIFホール
堺市中区東山500-3 Tel:072-234-2001

プログラム

開会の辞(18:00~18:05)
ベルランド総合病院 院長 亀山 雅男

講演(18:05~18:25)
座長：ベルランド総合病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 部長 三上 慎司
『当科における耳鼻咽喉科診療
～新規抗アレルギー薬を含めて～』
演者：ベルランド総合病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 中島 崇

特別講演(18:25~19:05)
座長：奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科 教授 北原 紘 先生
『診療ガイドラインに基づいた耳鳴治療の実際』
演者：奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科
学内講師 山下 哲範 先生

閉会の辞(19:05~19:10)



昨日は大阪堺市のベルランド総合病院にて「泉北耳鼻咽喉科セミナー2019」が開催されました。ベルランド総合病院耳鼻咽喉科は三上部長をはじめ常勤医4名体制で頭頸部外科分野を中心とした発展を目指しています。今年の特別講演では、当科山下学内講師が「診療ガイドラインに基づいた耳鳴治療の実際」について講演いたしました。今回は例年に比べて堺市を中心とした内科開業の先生方にも数多くご参加いただけました。セミナー終了後、過去、現在、未来のベルランド病院耳鼻科を語り合う懇親会も催されました。



2019/11/22 17:38



耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。いよいよ本日金曜午後で5回生1週ポリクリが今期最後となります。そして来月早々にはまた新・5回生1週ポリクリが始まります。このタイミングで内容を吟味し直しまして、本日のめまい総括は「めまい診療の基本：めまい救急医として/耳鼻咽喉科医として」としました。本日の橿原市はどんよりとした空、肌寒い空気に包まれております。明日からの医局旅行では晴れてくれることを期待します。皆様もどうぞ良い週末をお過ごしください。



2019/11/25 22:02



先週末に京都、天橋立に医局旅行に行ってきました。

ちょうど紅葉🍁も真っ盛りで、温泉につかり心身共にリフレッシュしてきました。



2019/12/03 0:11

ACTA OTO-LARYNGOLOGICA
2019, VOL. 139, NO. 6, 505-510
<https://doi.org/10.1080/00016889.2019.1599140>



RESEARCH ARTICLE



A new immunohistochemical method to evaluate the development of vestibular compensation after unilateral labyrinthectomy in rats

Kazunori Matsuda^a, Tadashi Kitahara^b, Taeko Ito^b, Munehisa Fukushima^c, Junya Fukuda^a, Go Sato^a, Yoshiaki Kitamura^a, Koji Abe^a, Atsuhiko Uno^d, Koichi Tomita^e, Hiromi Sakata-Haga^f, Yoshihiro Fuku^g and Noriaki Takeda^h

^aDepartment of Otolaryngology, Institute of Biomedical Sciences, Tokushima University Graduate School, Tokushima, Japan; ^bDepartment of Otolaryngology, Nara Medical University, Kashihara, Japan; ^cDepartment of Otolaryngology – Head and Neck Surgery, Kansai Rosai Hospital, Amagasaki, Japan; ^dDepartment of Otorhinolaryngology – Head and Neck Surgery, Osaka General Medical Center, Osaka, Japan; ^eDepartment of Anatomy and Developmental Neurobiology, Institute of Biomedical Sciences, Tokushima University Graduate School, Tokushima, Japan; ^fDepartment of Anatomy, Kanazawa Medical University, Kahoku, Japan; ^gSchool of Nutritional Science, Nagoya University of Arts and Sciences Graduate School of Nutritional Science, Nagoya, Japan

ABSTRACT

Background: Unilateral labyrinthectomy (UL) causes the disappearance of ipsilateral medial vestibular nucleus (ipsi-MVn) activity and induces spontaneous nystagmus (SN), which disappears during the initial process of vestibular compensation (VC). Ipsi-MVn activity restores in the late process of VC. **Objective:** We evaluated the late process of VC after UL in rats and examined the effects of thiopentamide (H3 antagonist) on VC. **Materials and methods:** MK801 (NMDA antagonist)-induced Fos-like immunoreactive (-LIR) neurons in contra-MVn, which had been suppressed by NMDA-mediated cerebellar inhibition in UL rats was used as an index. **Results:** The number of MK801-induced Fos-LIR neurons in contra-MVn gradually decreased to the same level as that of sham-operated rats 14 days after UL. Thiopentamide moved the disappearance of the MK801-induced Fos-LIR neurons 2 days earlier. The number of MK801-induced Fos-LIR neurons in thiopentamide-treated rats was significantly decreased, compared with that of vehicle rats on days 7 and 12 after UL. But, thiopentamide did not influence the decline of SN frequency in UL rats. **Conclusion:** These findings suggested that the number of MK801-induced Fos-LIR neurons in contra-MVn was decreased in concordance with the restoration of ipsi-MVn activity during the late process of VC after UL and that thiopentamide accelerated the late, but not the initial process of VC.

ARTICLE HISTORY

Received 6 January 2019
Revised 4 March 2019
Accepted 19 March 2019

KEYWORDS

Vestibular compensation; medial vestibular nucleus; spontaneous nystagmus; Fos; N-methyl-D-aspartate receptor; thiopentamide



Article

Vestibular Compensation after Vestibular Dysfunction Induced by Arsanilic Acid in Mice

Taeko Ito^{1,4*}, Kouko Tatsumi², Yasumitsu Takimoto³, Tadashi Nishimura¹, Takao Imai³, Toshiaki Yamanaka¹, Noriaki Takeda¹, Akio Wanaka² and Tadashi Kitahara¹

- Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Nara Medical University, Kashihara 634-8522, Japan; t-nishim@naramed-u.ac.jp (T.N.); toshiya@naramed-u.ac.jp (T.Y.); kitahara@naramed-u.ac.jp (T.K.)
 - Department of Anatomy and Neuroscience, Nara Medical University, Kashihara 634-8521, Japan; radha815@naramed-u.ac.jp (K.T.); akio@naramed-u.ac.jp (A.W.)
 - Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita 565-0871, Japan; yas.say.yas1.24@gmail.com (Y.T.); timai@ent.med.osaka-u.ac.jp (T.I.)
 - Department of Otolaryngology, University of Tokushima School of Medicine, Tokushima 770-8503, Japan; takeda@tokushima-u.ac.jp
- * Correspondence: taeito@naramed-u.ac.jp

Received: 27 September 2019; Accepted: 15 November 2019; Published: 18 November 2019



Abstract: When vestibular function is lost, vestibular compensation works for the reacquisition of body balance. For the study of vestibular dysfunction and vestibular compensation, surgical or chemical labyrinthectomy has been performed in various animal species. In the present study, we performed chemical labyrinthectomy using arsanilic acid in mice and investigated the time course of vestibular compensation through behavioral observations and histological studies. The surgical procedures required only paracentesis and storage of 50 µl of p-arsanilic acid sodium salt solution in the tympanic cavity for 5 min. From behavioral observations, vestibular functions were worst at 2 days and recovered by 7 days after surgery. Spontaneous nystagmus appeared at 1 day after surgery with arsanilic acid and disappeared by 2 days. Histological studies revealed specific damage to the vestibular endorgans. In the ipsilateral spinal vestibular nucleus, the medial vestibular nucleus, and the contralateral prepositus hypoglossal nucleus, a substantial number of c-Fos-immunoreactive cells appeared by 1 day after surgery with arsanilic acid, with a maximum increase in number by 2 days and complete disappearance by 7 days. Taken together, these findings indicate that chemical labyrinthectomy with arsanilic acid and the subsequent observation of vestibular compensation is a useful strategy for elucidation of the molecular mechanisms underlying vestibular pathophysiology.

Keywords: mouse; labyrinthectomy; p-arsanilic acid; c-Fos; Arc; Zif268; vestibular nucleus; head deviation; nystagmus; vestibular compensation

ヒトの前庭感覚上皮細胞/神経細胞は再生しないとされ、それゆえめまい治療として前庭リハビリテーションに注目が集まっています。今後とくに超高齢社会を迎えるにあたり、エビデンスの構築は喫緊の課題です。このたび徳島大学との院生を中心としたコラボにより、簡単で正確なめまい動物モデルの作成に成功しました。動物行動学的、形態学的に静的/動的の前庭代償過程を評価しつつ、より効率的な前庭リハビリテーションの開発につなげます。

2019/12/05 20:21



いつもありがとうございます。先日、当FBサイトへの「いいね！」が1100件に到達したことを報告しましたが、ここ2ヶ月足らずの本日、1200件に到達しました。この間、「NHK：ガッテン！」と「朝日放送：たけしの家庭の医学」が奈良医大めまいセンターを取り上げてくれたお陰でしょうか。

当FBサイト「いいね！」1200人目は大東市在住のTA様、応援ありがとうございます。皆様のご期待にそえるよう頑張ってお参ります。よろしくお願い申し上げます。



2019/12/07 10:02





2019年12月6-7日にかけて、九州大学医学部百年講堂にて、15th Japan-Taiwan Conference on Otolaryngology-Head and Neck Surgeryが開催されました。

当科からは北原がSymposium Dizzinessのセッションに参加しました。日本と台湾の学術交流を目的とした有意義な学会です。



2019/12/12 20:25



Back Number



毎週日曜日 深夜0時40分放送 ※一部地域を除く

【番組概要】

苦しむ人々を救うために研鑽を積み各分野で最先端かつ最善の
まさに極みに達した医技を駆使する日本の名医たち

そうした最先端医療の現場に密着

名医の表裏に迫り、病や医療に対する真摯な思いと医師としての原点や情熱に迫り
医療の大切さと業績らしさを伝える、今までにないショートドキュメンタリー

【放送内容】
2019年12月15日（日）
#10 北原礼医師（耳鼻咽喉科医）

「めまい治療のエキスパート」
内耳は2mmの狭い管状になっており、めまいの原因は、
日常生活に支障をきたすほどの強いめまい、難聴、耳鳴りなどが起きる。「メニエール病」、
いままで不明なこの病気の原因は、独自の手術法を開発し、
国際的に確立のある賞を受賞。それまで5割程度だった「めまい治療率」を約8割にまで上げた。
「北原礼師の手術法」とは、果たしてどんな手術なのか？さらに、そのめまいにも迫った。



【ドクタープロフィール】

北原礼
学歴・職歴
1990年3月 大阪大学医学部耳鼻咽喉科卒業
1992年2月 大阪大学大学院医学部耳鼻咽喉科専攻修了
1997年4月 大阪府立病院耳鼻咽喉科 医員
2001年10月 大阪大学医学部耳鼻咽喉科科学教室 助手
2002年4月 大阪大学医学部耳鼻咽喉科科学教室 研究員
2008年4月 大阪大学医学部耳鼻咽喉科科学教室 講師
2010年4月 大阪府立病院耳鼻咽喉科 部長
2013年10月 大阪大学医学部耳鼻咽喉科科学教室 准教授
2014年5月 奈良県立医科大学耳鼻咽喉科 耳鼻咽喉科科学教室 教授

【放送内容】
2019年12月22日（日）
#11 北原礼医師（耳鼻咽喉科医）

「めまい治療のエキスパート」
結核に罹患した「メニエール病」の手術法で、国際的に確立のある賞を受賞した北原。
この手術をするのは、「メニエール病」を根治し、10年以上にわたってめまいに苦しむ20代の若者。
「めまいを治して頂きたい」といふ。
それまで8割程度だった「めまい治療率」、約8割にまで上げた北原礼師の手術に密着。
めまいは、決して治る日を見取れないものか？そして、北原が思う原因とは？



【ドクタープロフィール】

北原礼
学歴・職歴
1992年3月 大阪大学医学部耳鼻咽喉科卒業
1997年2月 大阪大学大学院医学部耳鼻咽喉科専攻修了
1997年4月 大阪府立病院耳鼻咽喉科 医員
2001年10月 大阪大学医学部耳鼻咽喉科科学教室 助手
2002年4月 大阪大学医学部耳鼻咽喉科科学教室 研究員
2008年4月 大阪大学医学部耳鼻咽喉科科学教室 講師
2010年4月 大阪府立病院耳鼻咽喉科 部長
2012年10月 大阪大学医学部耳鼻咽喉科科学教室 准教授
2014年5月 奈良県立医科大学耳鼻咽喉科 耳鼻咽喉科科学教室 教授

耳鼻咽喉・頭頸部外科学の北原です。今週から新5回生の1週ポリクリが始まっています。明日金曜が東京出張なので、本日木曜に新5回生の1週ポリクリ総括をさせていただきました。

ポリクリ内容がマンネリ化しないよう、毎年一部を刷新しながら内容の発展を考えてきました。今回から「私、明日からめまい救急当直できます！」というタイトルで、救急でのトリアージからその後の耳鼻科での鑑別診断までのプロセスをわかりやすくまとめることができました。新5回生の諸君、ご期待ください。



ところで、今年10月から始まったテレビ朝日の関東ローカル「名医の極み」という番組をご存じでしょうか。このたび12月15日日曜と12月22日日曜の2週連続、深夜0時40分から、奈良医大めまいセンターが取り上げられます。今回はめまいに対する手術治療に焦点が当てられ、常に前向きに取り組み発展し続けるめまいセンターが紹介されます。ただし、SBC一社提供の関東ローカル番組なので関西ではご覧いただけませんし、私も見られません。

それでは皆様、良い週末をお過ごしください。



2019/12/21 9:14



昨日B病棟8階(耳鼻咽喉科・総合診療科・血液内科)の合同忘年会が開催されました。年明けには、総合診療科がA病棟4階に移転することになり、三科での忘年会は今年で最後になります。今年も一年多くの方々に支えていただきながら前にすすむことができました。来年もどうぞよろしくお願いいたします。